

星野地域振興計画

(令和6年度～令和15年度)



令和6年4月

八女市星野村

基本施策（共通事項）

1 基本方針

地域住民の住み慣れた地域で共に助け合いながら、安心して生きがいを持って、健やかに暮らせる豊かな生活の実現を目指します。

2 重点目標

(1) 災害に強いまちづくり

近年の異常気象による大型台風、集中豪雨、地震など未曾有の大規模自然災害の多発が見られる中、災害に対する備えや地域住民の防災意識を高め、地元消防団及び自主防災組織と連携し、地域住民協働による防災・避難体制の強化を図り、災害に強いまちづくりを目指します。



(2) 伝統文化の伝承

地域住民の豊かな感性と情操を培い、潤いと安らぎのある生活を目指すため、次世代の若者が伝統文化に触れ合う機会を確保しながら正しく後世に伝承します。

先人から伝え残された貴重な歴史的文化遺産の保存・保護を基本に、伝統文化が根付く文化の薫り高いまちづくりの推進を目指します

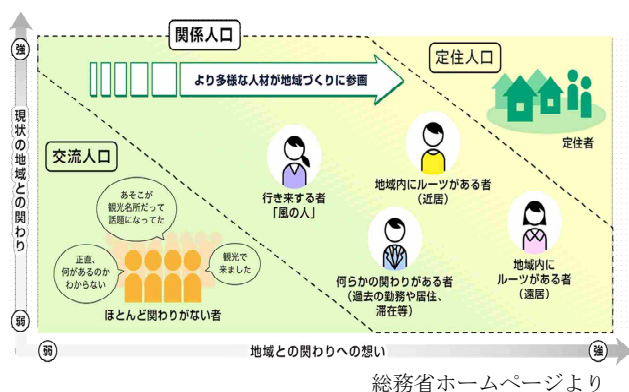
- 征西将軍懐良親王と星野氏にまつわる中世の歴史遺産
- 天領日田と筑後国国境に配された国境石群
- 風流はんや舞の伝承
- 御良八幡太鼓の伝承
- 古陶星野焼の保存継承 その他有形文化財保存保護活動



(3) 定住対策の推進

主要地方道（県道）の整備充実に加え、合瀬耳納トンネルの開通など、都市部までの所要時間も大幅に短縮する中、本地域の魅力発信を行い、関係人口※の創出・拡大、移住者の増加を目指します。

また、1ターンUターンをはじめとした、移住希望者への定住促進の取り組みを推進するとともに、後継者育成を行い、豊かな自然の中で子育て環境に適した潤いのあるやさしいまちづくりを目指します。



※関係人口…移住した「定住人口」でもなく観光に来た「交流人口」でもない地域と多様に関わる人々のこと。

(4) 代表的な観光資源の保全・活用

本地域は星のふるさと公園（星の文化館、茶の文化館、平和の火、池の山）古陶星野焼展示館をはじめ、棚田や星の花公園・ミヤシノシャクナゲ園、室山熊野神社から竜川内溪谷、カラ迫岳、石割岳、鷹取山などの自然景勝地や観光施設など多種多様の観光資源を有しており、通年を通して多くの来訪者があります。今後は、これらの観光資源の景観保全を基本に、「地域」と「日本で最も美しい村連合星野地区協議会」等の各団体と連携を密に図り適切な景観整備など、これらの観光資源の活用と適正な保全のための活動を推進します。



(5) 地域住民が安心・安全に暮らせる地域づくりの推進

少子高齢化が急激に進行する本地域は、地域の強みである「顔のみえる関係」を活かし、高齢者の日常生活の支援体制づくりや、交通移動手段の確保・維持改善及び健康活動の推進を行い、高齢者自身が地域の役割や生きがいをもって暮らせる人生100年時代を見据えた地域づくりを推進します。

(6) 都市との交流事業の推進

豊かな自然、歴史的文化遺産など、あらゆる地域資源を活用し、本地域内外の様々な団体と連携を図りながら都市との交流事業を推進します。

- シャクナゲまつり
- 新茶まつり
- 夏祭り「よかつ祭」
- 風流・はんや舞
- 鹿里彼岸花まつり
- 星のまつり
 - ・九州和太鼓フェスティバル
- その他地域特有のまつり



(7) 山村留学制度の支援

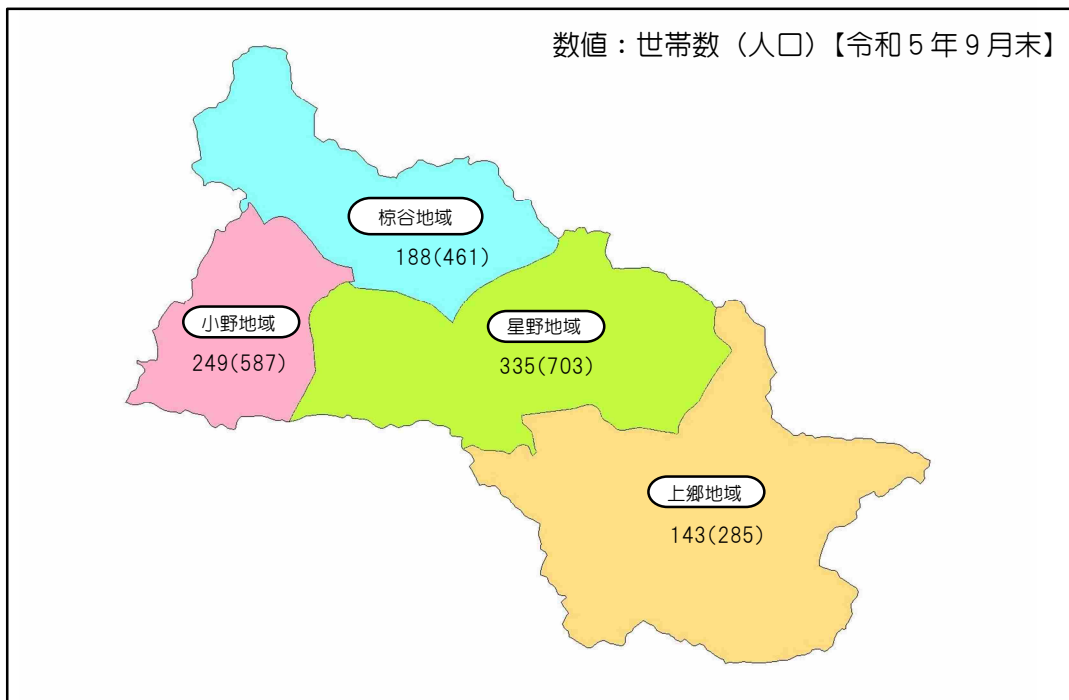
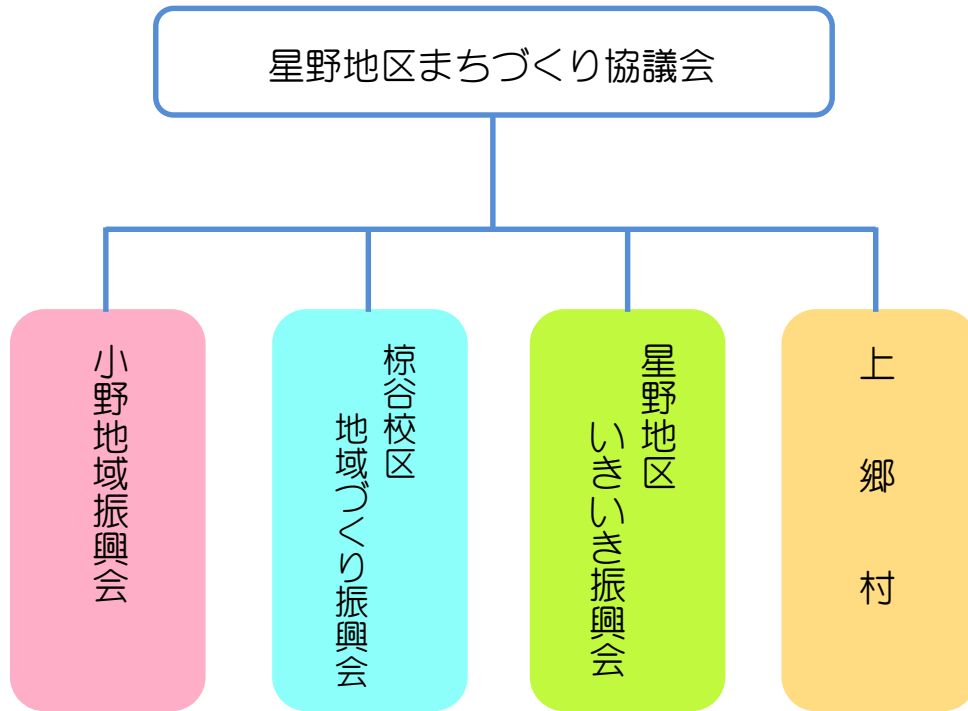
市外の児童を1年間受け入れ、星の自然の家で集団生活しながら星野小学校へ通学する制度です。地元児童と山村留学生との積極的な交流を通して、双方が優れた教育効果を楽しみ、少子化対策への期待も大きく、継続した支援を行います。



(8) 真名子ダム建設反対運動の推進

星野地区住民の生活を守り、豊かな自然、清流星野川を後世まで残すため引き続き真名子ダム建設に反対します。

3 推進体制



小野地域振興会 地域振興計画書

(令和6年度～令和15年度)



令和6年4月
小野地域振興会

目次

第1 はじめに

- 1 計画策定の趣旨（目的）

第2 地域の概況

- 1 位置・地勢、地域課題等
- 2 人口・世帯

第3 小野地域のめざす将来の姿

- 1 基本理念
- 2 基本目標

第4 将来の姿の実現に向けて

- 1 取り組み内容

第1 はじめに

1 計画策定の趣旨（目的）

この計画は、人口減少や少子高齢化、核家族化の進行、地域の連帯意識の希薄化など社会環境が変化する中で、小野地域の課題や、めざすべき将来像等を明らかにし、住民の創意工夫により、地域の様々な課題解決に取り組むとともに、行政等と協働してより良い地域づくりを推進することを目的として策定します。

小野小学校 校歌

菊池 剣 作詞
安永武一郎 作曲

一

高峰山の山ふもと
遠い親からうけついで
心を玉と磨いては
あすの郷土をおこそうよ
古里の名をあげようよ
輝けわれらの小野小学校

二

睦び親しむ友だちと
星野の川の川水に
体を鉄と鍛えては
あすの日本をせおおうよ
国の力をのばそうよ
栄えあれわれらの小野小学校

三

日に日にすすむ学習に
勉め励みてさまざまの
文化を華とさかせては
あすの社会をかざろうよ
世界の平和きざろうよ
たたえよわれらの小野小学校

第2 地域の概況

1 位置・地勢、地域課題等

小野地域は、八女市星野村（以下「星野地区」という。）の西部に位置し、八女市上陽町と接しています。星野地区の約3割にあたる人口が暮らす地域で、「星野地区の玄関」的な役割にあります。星野地区の中では、八女市街に最も近い位置のため、通勤者が多く、兼業農家の割合が高い地域です。主要農作物は茶と水稻で、一部には園芸作物も栽培されています。

主な地域課題に目を向けてみますと、地域防災力の向上は重要な課題のひとつです。近年、国内では熊本県や北海道、石川県において大規模地震が発生、また多くの地域で地球温暖化が要因と考えられる風水害が発生しています。星野地区においても、毎年のように風水害に見舞われており、災害に強い地域づくりや地球温暖化を見据えた環境保全対策を推進していかなければなりません。

定住対策も喫緊の課題です。今後ますます人口減少や少子高齢化の進行が見込まれます。一人暮らしや高齢者のみの世帯も増加しています。地域の全ての人々が健康で心豊かに安心して暮らせるよう、通学や通勤、通院や買い物、産業振興、子育てなどの生活基盤の充実や地域経済循環が望まれます。

生活環境面の課題として、本地域の自然環境は地域住民の誇りでもあります。生活雑排水の放流やごみの不適切な処分などによる水質や大気の悪化が懸念されます。

歴史や文化資源については、大円寺や小野神社、櫨の巨木など貴重な資源があります。風流やはんや舞などの伝統文化も脈々と引き継いできましたが、保存活用について継承者不足などの課題が生じています。

2 人口・世帯

本地域の人口は、令和5年9月末日現在（住民基本台帳）で587人、世帯数は249世帯となっており、10年間で約26%の人口減少となっています。

現在の年齢階層別の人口（割合）は、

0～14歳の年少人口が・・・50人（8.5%）

15～64歳の生産年齢人口が・・・262人（44.6%）

65歳以上の老年人口が・・・275人（46.9%）

であり、一世帯あたりの人数は、平成25年の3.07人から令和5年は、2.36人と減少しています。

（単位：人、戸）

区分	男	女	計	うち65歳以上 （老年人口率）	世帯数
小野1区	134 (160)	147 (208)	281 (368)	121 (43.1%)	114 (121)
小野2区	142 (205)	164 (223)	306 (428)	154 (50.3%)	135 (138)
上小野 支部	45 (69)	62 (79)	107 (148)	55 (51.4%)	55 (56)
土穴支部	35 (48)	40 (53)	75 (101)	30 (40.0%)	29 (31)
長尾支部	62 (88)	62 (91)	124 (179)	69 (55.6%)	51 (51)
小野地域	276 (365)	311 (431)	587 (796)	275 (46.8%)	249 (259)
旧星野村 全域	981 (1,351)	1,107 (1,612)	2,088 (2,963)	1,008 (48.3%)	963 (1,091)

住民基本台帳：令和5年9月末日現在

（）内は平成25年9月末日数値

第3 小野地域のめざす将来の姿

1 基本理念

小野地域のまちづくりの基本理念を、次のとおり掲げます。

健康で いきいき暮らせる 活力ある小野地域

本地域は、星野地区の表玄関としての役割を大切にし、来訪者が最初に目にする星野地区として、美しい山村の風景を維持保存しながら、豊富な史跡や文化財、豊かな人材などの地域資源を最大限に活かして、誇りある地域づくりをめざします。

また、ライフラインや産業振興など生活基盤の整備を図りながら、小野地域に住むすべての人々が、健康で安心して、いきいきと、心豊かに暮らせる生活環境やコミュニティの形成を推進し、次世代へと継承していきます。

2 基本目標

1 安全に生活できる地域づくり

2 みんなが健やかでいきいきと安心して暮らせる地域づくり

3 安心して子どもを育てることができる地域づくり

4 伝統文化と新しい文化が生きる地域づくり

5 人と自然が共生し暮らしやすい地域づくり

6 みんながふれあい助け合い生きがいある地域づくり

第4 将来の姿の実現に向けて

1 取り組み内容

今回の計画の見直しにあたり住民アンケートを行いました。取り巻く社会情勢やアンケート結果をもとに、将来の姿を実現させるための6つの基本目標に基づく取り組みをチェックし、地域住民の自主性を尊重しながら各施策に取り組んでいきます。

主要施策に対する具体的な取組みについては、実施主体（地域・協働・行政）及び実施時期等を示し、実施計画書としてまとめていきます。

1 基本目標：安全に生活できる地域づくり

【現状と課題】

本地域は、前述のとおり地区外への通勤者が多く昼間人口が少ない地域であるため、昼間の火災や自然災害等への対応の遅れが心配されています。災害危険箇所を把握し、道路や防火水槽などのハード面の整備だけでなく、要援護者支援体制の確立や、避難訓練の実施等により地域防災力の向上を図りながら安全な生活基盤の確立が求められます。

平成24年7月の九州北部豪雨災害により星野地区は大きな被害を受け、復旧復興に努めてきました。地球温暖化が要因と考えられる豪雨など、今後の災害を見据え、被災体験を活かしながら、避難体制や自主防災を強化する必要があります。

防犯や交通安全に関しては、危険個所の点検や啓発活動の強化に努め、防災対策同様、行政との協働による予防対策を講じる必要があります。

【主要施策項目】

- 1 防災対策の充実
- 2 防犯対策の充実
- 3 交通安全対策の充実

1 基本目標：安全に生活できる地域づくり

主要施策	具体的な取組み	実施主体			早めに取り組む	案を練りながら取り組む	時間をかけて取り組む
		地域	協働	行政			
1 防災対策の充実	消防施設の整備・要望 (防火水槽・消防用道路等)		●			●	
	治山・砂防事業による防災事業の要望		●				●
	地域点検（危険箇所等）・整備要望		●		●		
	防火・防災活動の推進 (消防団との連携、防災教室等)		●		●		
	災害時の避難体制確立・避難訓練の実施		●		●		
2 防犯対策の充実	防犯灯、防犯設備の設置・要望		●			●	
	空き地、荒地等の適正管理の推進		●			●	
3 交通安全対策の充実	反射タスキ着用の推進	●			●		
	カーブミラーや外灯の設置・要望		●			●	
	地域点検（危険箇所等）の実施・整備要望		●		●		

2 基本目標：みんなが健やかでいきいきと安心して暮らせる地域づくり

【現状と課題】

本地域は、65歳以上の方が275人（小野地域人口587人）で、高齢化率は46.8%と、10年前の34.4%から約12%高齢化率が高くなっており、着実に少子高齢化は進行しており、地域活動の継続が困難になりつつあります。地域住民が健やかでいきいきと安心して暮らせる地域を目指すうえでは、相互扶助により地域活動を支えていく必要がありますが、行政と連携して集落支援員制度の活用や、関係人口の創出など、様々な対応策について考えていく必要があります。

高齢者福祉については、高齢者のひとり暮らしや高齢者のみの世帯の増加が考えられるなか、「思いやり」「やさしさ」の気持ちを持って、日常生活の支援をはじめ、生きがいづくりや介護予防、健康づくりの推進など、高齢者を地域で支える体制づくりが必要です。地域サロン等は有効な取り組みですが、主催者の確保や会場までの移動手段の確保といった課題もあります。

地域の全ての人々が健康で心豊かに安心して暮らせるよう通学や通勤、通院や買い物支援、バリアフリーなど、日常の暮らしにおける生活基盤や社会福祉の充実が求められています。

【主要施策項目】

- 1 高齢者等の生きがいづくり
- 2 日常生活を支える生活基盤の充実
- 3 介護予防対策
- 4 健康づくりの推進

2 基本目標：みんなが健やかでいきいきと安心して暮らせる地域づくり

主要施策	具体的な取組み	実施主体			早めに取り組む	取り組む案を練りながら	時間をかけて取り組む
		地域	協働	行政			
1 高齢者等の生きがいづくり	地域サロンの開催		●		●		
2 日常生活を支える生活基盤の充実	高齢者等世帯の実態把握と安否確認体制の確立		●			●	
	声かけ、日常生活の支援	●			●		
	通院や買い物の支援体制の検討・実施		●			●	
	地域公共交通等の有効活用、移動手段の検討		●			●	
	地区内のバリアフリー点検	●				●	
	PC や SNS の活用講座等	●			●		
	公営住宅の在り方について協議、要望			●			●
3 介護予防対策	介護予防のための機能訓練	●			●		
4 健康づくりの推進	健康づくり教室の開催		●			●	
	ウォーキングコースの設置、整備		●			●	
	住民健診受診の呼びかけ		●		●		
	中高年を対象とした健康、生きがいづくり活動		●			●	

3 基本目標：安心して子どもを育てることができる地域づくり

【現状と課題】

本地域は、過疎化に歯止めがかからず、若者の流出が続き、少子化による児童数の減少により、小野小学校をはじめ4校あった小学校が統廃合により、平成19年4月から1校となりました。

平成24年の九州北部豪雨の折には、高校への通学等の利便性を考え小野地域外への転居もありました。近年では、通学手段のひとつである路線バスの存続が厳しくなっています。行政による子育てや定住促進に関する支援の充実に併せ、通学手段の確保も子育て世帯の定住化においては重要な課題です。

また、児童・生徒数の減少により、子ども会活動等も難しくなっており、地域振興会等との連携も必要とされています。

子どもたちの健やかな成長は地域の願いです。野球やサッカー、剣道など、地域の有志による少年スポーツの指導がなされていますが、地域の子どもは地域が育てるという視点に立って、青少年の健全育成を支援する体制づくりが期待されます。

若年層の定住化に何が必要なのか、若者の声にも耳を傾けながら、また地域活動への参加を促しながら、今後の取り組みを考えていかなければなりません。

児童生徒数（星野小学校・星野中学校）の推移

（単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
小学	143	122	100	102	96	99	94	97	93	80	77	70	70	68	67	65	61
中学	64	71	74	66	55	39	42	35	33	30	33	36	34	32	31	32	30
合計	207	193	174	168	151	138	136	132	126	110	110	106	104	100	98	97	91

※R5までは5月1日現在、R6以降は見込み数（八女市教育委員会情報提供）

【主要施策項目】

- 1 子育て世帯の定住促進
- 2 青少年の健全育成

3 基本目標：安心して子どもを育てることができる地域づくり

主要施策	具体的な取組み	実施主体			早めに取り組む	案を練りながら取り組む	時間をかけて取り組む
		地域	協働	行政			
1 子育て世帯の定住推進	通学対策の検討		●			●	
	若年世帯支援等の情報提供（マイホーム、子育て等）			●	●		
	若年者・若年世帯同士の交流機会の創出（同世代間交流）		●			●	
	若年者・若年世帯との交流機会の創出（世代間交流）		●			●	
	子どもの遊び場（公園等）設置、要望			●		●	
2 青少年の健全育成	あいさつ運動	●			●		
	子ども会活動と地域の連携	●				●	

4 基本目標：伝統文化と新しい文化が活きる地域づくり

【現状と課題】

本地域には、歴史的にも重要な数々の文化財があり、私たちの誇りであると同時に、それらを後世に引き継ぐことは私たち地域住民の責務ともいえます。

市指定文化財の「小野神社」をはじめ「玉水山 大円寺」「懐良親王墓所」「浄源寺山門」など、数多くの文化財があります。鎌倉時代から受け継がれてきた伝統芸能「風流はんや舞（福岡県指定無形民俗文化財）」は、「下郷」「横回り」「中通り」「上郷」の4地区で守り続けられ、小野1区と小野2区は、「下郷」と「横回り」の風流・はんや舞を伝承しています。長尾の天照御祖（あまてらすみおや）神社に伝わる伝統文化「こっぱげ面」は、同神社の氏子により行われております。

しかしながら、このような文化財や伝統行事のことをあまり知らない地域住民も少なくありません。「こっぱげ面」は全国でも珍しい風習としてテレビ番組等でも取り上げられることもあり、以前よりも認知度が高くなりましたが、文化財や伝統行事の地域内における認知を高めることで、伝承者の確保などの課題解決を図っていくことが必要です。

伝統文化等を活かすことで、地域内外の人たちとの交流が深まります。伝統文化等の継承が地域の活性化に結びつくことを自覚し、誇りある地域づくりを促進することが重要です。

文化的活動は、心を豊かにしてくれるだけでなく、地域コミュニティの醸成を促し、交流促進による地域活性化にも多大な影響を与えます。活動にあたっては、地域特色を生かした公民館活動を推進することも有効です。

【主要施策項目】

- 1 伝統文化の継承活動
- 2 公民館活動の推進

4 基本目標：伝統文化と新しい文化が生きる地域づくり

主要施策	具体的な取組み	実施主体			早めに取り組む	案を練りながら取り組む	時間をかけて取り組む
		地域	協働	行政			
1 伝統文化の継承活動	伝統行事の伝承活動の支援（風流はんや舞、こっかげ面等）		●		●		
	地域の歴史勉強会	●				●	
	文化財や史跡等の案内や記録の整理		●			●	
	史跡等保全活用環境、関係施設の整備		●			●	
2 公民館活動の推進	社会教育・生涯学習事業の推進		●		●		
	健康事業（スポーツ等）の推進		●		●		
	集会施設整備		●			●	

5 基本目標：人と自然が共生し暮らしやすい地域づくり

【現状と課題】

星野川は私たちの生活に豊かさを与えてくれます。しかしながら、生活雑排水等の垂れ流しなどにより河川の水質を悪化させています。浄化槽の設置や集落排水施設の整備推進を図りながら、清流星野川の水質保全に努める必要があります。また、星野地区は森林資源が豊富であり、涵養機能や災害防止機能を有し、私たちの暮らしを守っています。地球温暖化抑制効果もあります。しかしながら、林業の衰退に伴い荒れてきています。間伐や下刈り等の管理を行い、健全な森林保全に努める必要があります。

近年、振興会では景観事業に取り組んできました。景観整備は、地域住民はもちろんのこと、来訪者にとっても癒し効果があり、交流人口の増加が期待できます。

本地域は、星野地区の西側入口に位置し、地区の玄関的な役割を担っています。例えば、水田にはレンゲ草や彼岸花を、沿道には桜や紅葉を植栽するなどの取り組みも有効であると考えられます。

特に星野地区は、『日本で最も美しい村連合』にも加盟しており、星野地区協議会や他の地域振興会とも連携して、星野地区全体での景観事業が効果的です。

自然の恩恵を享受するうえで私たちができる環境保全は何なのかを地域一体となって考える必要があります。食品ロス削減やごみの資源化、省エネ、不法投棄防止、野焼き防止などに努め、古より豊かな生活を提供してきた山村の原風景を後世まで大切に守りながら「自然との共生」の視点に立った暮らしやすい地域づくりを進めていかなければなりません。

【主要施策項目】

- 1 生活環境の保全
- 2 森林資源の活用保全
- 3 美しい景観づくり

5 基本目標：人と自然が共生し暮らしやすい地域づくり

主要施策	具体的な取組み	実施主体			早めに取り組む	取り組む案を練りながら	時間をかけて取り組む
		地域	協働	行政			
1 生活環境の保全	浄化槽推進のための検討会		●			●	
	環境保全の勉強や実践（ごみ処理、省エネ、野焼き防止等）	●			●		
	河川愛護		●		●		
	生活環境や関連設備の整備要望		●		●		
2 森林資源の活用保全	炭焼きなどの交流	●			●		
	放置山林の調査、検討		●			●	
3 美しい景観づくり	日本で最も美しい村連合星野地区協議会との連携		●		●		
	景観事業（プランター設置や植栽等）	●			●		
	道路愛護		●		●		
	イルミネーションの設置	●			●		
	ホテルの生息環境づくり	●			●		

6 基本目標：みんながふれあい助け合い生きがいある 地域づくり

【現状と課題】

本地域は、過疎化・少子高齢化の進行とともに隣組の構成世帯数も減少し、隣組の再編が課題となっています。また、小野2区については、行政区再編により、平成19年4月から3つの旧行政区が統合され1つの行政区となりました。今後も、必要に応じた隣組再編や集落支援員制度活用等の検討を行いながら、行政区一体なった円滑な組織運営を推進していく必要があります。

地域の活性化を図るためには、若者を軸にした地域人口の定着を図る必要があります。そのためには商工業や農林業などの産業振興による就労機会の創出、地域における若者の役割や負担、結婚や子育てがしやすい環境などについて考え、行政と協働しながら、更なる対策の充実を図る必要があります。

地域内交流事業は、コミュニティの醸成を促します。令和2年から世界的に大流行した新型コロナウイルス感染拡大のため、3年間ほど様々な社会活動の自粛を余儀なくされました。令和5年に入り感染拡大が落ち着いてきたため、従来のような暮らしに戻りつつあります。自粛していた活動の再始動は大変ですが、交流の機会を創出し、改めてコミュニティの醸成を図っていく必要があります。

さらに地域内交流促進にとどまらず、地域外にも目を向け、都市住民との交流事業やツーリズムの推進、Uターン者の受け入れ、若者の転出防止、関係人口の創出、地域資源としての空き家の利活用など、地域活性化に結び付ける方策を考え、行動に移すことも重要です。そのことにより、地域内外におけるふれあいを深め、共に支えあい、活力のある地域づくりを目指していきます。

【主要施策項目】

- 1 地域運営の効率化
- 2 産業振興及び就労の確立
- 3 交流イベントの推進
- 4 ツーリズムの推進
- 5 空き家等の利活用

6 基本目標：みんながふれあい助け合い生きがいある地域づくり

主要施策	具体的な取組み	実施主体			早めに取り組む	取り組む案を練りながら	時間をかけて取り組む
		地域	協働	行政			
1 地域運営の効率化	効率的な行政区運営の検討（地域振興活動含む）		●			●	
2 産業振興及び就労の確立	野菜栽培等の研修	●				●	
	農産物直売の検討・実施	●				●	
	農地流動化の推進、耕作放棄地の解消		●			●	
	地場産品の消費宣伝（玉露等）		●			●	
	就業就農支援		●			●	
	商工業振興の検討		●				●
	新ビジネスの検討		●				●
3 交流イベントの推進	交流イベント・スポーツイベントの企画・開催	●			●		
	コンサート・文化講演会の企画・開催		●		●		
4 ツーリズムの推進	ツーリズム（学習や研究などをテーマとした旅行等）の企画・開催		●			●	
5 空き家等対策	空き家調査及び活用の検討		●			●	
	Uターンの推進		●			●	

棕谷校区地域振興計画書

(自然と文化が育む明るく元気な地域づくり)

令和6年4月

棕谷校区地域づくり振興会



目次

1. 計画策定の目的

2. 地域の概況

(1) 自然的、地理的条件

(2) 社会的条件

(3) 経済的条件

3. まちづくりの現状と課題

(1) 産業に関する現状と課題

(2) 生活環境に関する現状と課題

(3) 自然環境に関する現状と課題

(4) 教育、文化に関する現状と課題

(5) 地域交流に関する現状と課題

4. まちづくりの目標と取組

(1) 各分野のテーマ

- ・ 棕谷校区実施計画書

◎ 付属資料

- ・ 棕谷校区地域づくり振興会委員名簿

1. 計画策定の目的

この計画は、椋谷校区の住民自らが話し合い、自らの創意工夫により山積する様々な課題解決に取り組むとともに、行政と協働してよりよい地域づくりを推進する会員共通の指針として本計画を策定する。

2. 地域の概況

(1) 自然的、地理的条件

本地域は、星野村の北西部に位置し、面積 16.04 k²、北西の標高 802 m の鷹取山から北東の 568 m の合瀬耳納峠までなだらかな稜線で結ばれ、西は八女市上陽町、北はうきは市・久留米市と接した地域である。

地形は、概ね急峻であり、豊かな緑やかなだらかな稜線に沿う棚田や段々畑が風情ある山里の風景を形作っている。また、山間から流れ出る河川にそって集落が形成されている。

気候は、年間を通じて比較的温暖で降水量も多く、作物の生育には適した土地柄で、冬季には積雪がみられる。

(2) 社会的条件

本地域の人口は、平成 25 年 4 月 1 日時点で 665 人であったが、令和 5 年 4 月 1 日現在では、469 人で 196 人減少している。

(減少率 29.5%)

全国的に少子高齢化傾向のなか、本地域では少子化が急速に進んでおり、14 歳以下の年齢ごとの平均が 3.5 人（前回 6.3 人）という状況である。このままでは、後継者不足はもちろん地域の活性化にも影響が出てくるのが危惧され、少子化対策や定住促進への取り組みが急務である。

年 代	男		女		計		増減数
	平成 25 年	令和 5 年	平成 25 年	令和 5 年	平成 25 年	令和 5 年	
0～14 歳	45	21	43	28	88	49	△39
15～64 歳	178	124	173	106	351	230	△121
65 歳以上	87	77	139	113	226	190	△36
計	310	222	355	247	665	469	△196

(3) 経済的条件

本地域の総面積は、16.04 km²で、そのうちの70%以上を山林が占めている。耕地面積は3.38 km²で全体の20%程度である。

主幹産業は農林業であり、とりわけ茶と緑花木を主体として発展してきたが、担い手の減少、従事者の高齢化、耕作放棄地の増加、価格の低迷など農林業を取り巻く状況は、きわめて厳しいものがある。

しかし、第1次産業への就業人口は、全体の90%以上を占め、緑花木については、全国的にも有数の産地を形成し、茶業においても国県市の補助を受けて茶園造成や機械の導入など経営の近代化が進み、規模拡大が進展している。

3. まちづくりの現状と課題

(1) 産業に関する現状と課題

なだらかな稜線の中に、美しい棚田や段々畑が立地し、品質の高い玉露や棚田米の産地となっている。また、北部一帯にかけて、パイロット茶園や花木団地などの農地が広がり、お茶や花木などの良好な農業基盤が整備されている。しかし、経済情勢の変化に伴い厳しい環境が続いている。

茶の生産については、経営規模の拡大により、茶園造成や大型機械の導入が進んだ結果、多くの資金が必要になる状況にあるが、近年は価格低下により経営状況は年々厳しさを増している。緑花木は、公共事業の減少などにより、価格低迷が定着し、需要に応じた品種の生産体制や販売体制の構築が課題となっている。林業についても、木材価格の低迷が続いており、担い手不足や森林の荒廃が進んでいる。

今後は、中山間地の条件を活用し、農地の集約や機械の共同利用など集落営農に取り組むことが急務となっている。また、集落営農のリーダーとなる人材の育成や若い就農者の収益を確保し、後継者を増やしていくことが重要な課題となっている。

魅 力	問 題 点
<ul style="list-style-type: none"> • 良好な農業生産基盤がある • 豊富な農地と多様な取り組みが可能 • 良質なお茶、花木の生産地 • 専業農家の割合が高い • 集落営農の組織化が進んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> • 耕作放棄地の増加 • 農家の経営格差が拡大している • 新規就農者が少ない • 農地の集約や機械の共同利用が遅れている
課 題	
<ul style="list-style-type: none"> ①農林業の振興 ②集落営農（農地の集約、機械の共同利用等）の取り組み ③担い手の育成 	

（２）生活環境に関する現状と課題

道路網については、合瀬耳納トンネルが平成 30 年に開通し、交通量が増加した。県道八女香春線の中渡瀬地区の早急な整備が望まれる。簡易水道については、未普及地域への整備を進めていく。また、河川の浄化を図るため、各家庭の合併浄化槽の導入を継続して推進していく。

また、九州北部豪雨での経験を教訓とし、自主防災組織の育成と避難体制の確立、消防・防災体制の強化などに取り組んでいく。

この他、定住促進のためにも古い慣習にとらわれず、安心して子育てできる生活環境づくりや移住者との交流を図る。

魅 力	問 題 点
<ul style="list-style-type: none"> • 地域にまとまりがある • 高齢者が暮らしやすい土地柄である • 安心して生活できる（防犯） 	<ul style="list-style-type: none"> • 道路等の社会基盤整備が遅れている • 自然災害等の不安がある • 空き家の活用 • 古い慣習にとらわれ変革できない
課 題	
<ul style="list-style-type: none"> ①道路等の社会基盤整備 ②生活環境の整備 ③高齢者等の福祉の充実 	

(3) 自然環境に関する現状と課題

椋谷校区は、なだらかな稜線上に立地するため豊かな山林や河川などの自然環境に恵まれ、また棚田や段々畑などの特徴的な農村景観がみられる。その美しい棚田の風景を活かした地域づくりから、地元農産物の販売につながっている。

九州北部豪雨災害で多くの農地や水路等が被災した結果、耕作放棄地の増加が懸念され、より早い災害からの復旧が課題となっている。

魅 力	問 題 点
<ul style="list-style-type: none">・自然公園的な景観がある・棚田などの農村風景がある・季節ごとに違った彩が感じられる	<ul style="list-style-type: none">・豪雨災害からの復旧・環境保全に対する意識が低い・有害鳥獣の被害が増えている
課 題	
①自然、農村の環境保全 ②沿道景観の整備 ③道路・河川の美化	

(4) 教育、文化に関する現状と課題

子供会活動や文化財の保護・地域文化の伝承・地域づくり問題など社会教育の充実が課題となっている。

地域活動の拠点となる椋谷小学校跡地の地域交流センターについては、立地もよく施設も整っているため、地域づくりや教育・文化の拠点となるよう利活用について検討する必要がある。

魅 力	問 題 点
<ul style="list-style-type: none">・地域に文化や祭りがある・年代別にグループ活動がある・子供の育成が図られている	<ul style="list-style-type: none">・文化や芸術に対する意識が低い・地域交流センターの活用・図書館などの利用が少ない
課 題	
①生涯学習の振興 ②伝統文化の継承 ③地域交流センターの活用	

(5) 地域交流に関する現状と課題

イベントなどを通して都市との交流が広がってきているので、校区全体へその輪を広げていくことが課題となっている。また、トンネル開通による交流人口も増加してきた。地域情報の発信を行い、地域に引き込む仕掛けをつくることが重要となる。

また、地域内交流においても校区全体で行うことが少ないため、スポーツ大会などによる住民交流を積極的に行っていく必要がある。

魅 力	問 題 点
<ul style="list-style-type: none">・まつりなどによる交流が盛ん・地域の案内板が整備されている	<ul style="list-style-type: none">・都市との交流が少ない・椋谷校区全体での交流が少ない
課 題	
<ul style="list-style-type: none">①住民参加の地域づくりの推進②地域情報の発信③都市住民との交流促進	

4. まちづくりの目標と取組

椋谷地区の将来像を

『自然と文化が育む明るく元気な地域』

と定め、住民自ら積極的な行動によりその実現を目指す。

(1) 各分野のテーマ

①産業振興に関すること

「農林業と観光の振興を目指す豊かな地域づくり」

○農林業の振興

- ・機械化による農作業の効率化

- ・高収益型農産物の導入
- ・集落営農の推進（農地の集約・機械の共同利用等）
- ・農道・林道整備による農作業の効率化

○産業・観光の振興

- ・地場農産物の加工販売
- ・グリーンツーリズムの推進

○担い手の育成

- ・認定農業者の育成
- ・新規就農者の確保（Uターン・Iターン）

②生活環境に関すること

「子供からお年寄りまで安心、安全に暮らせる地域づくり」

○道路交通整備

- ・主要道路（県道・市道）及び農道・林道の整備
- ・交通安全施設等の整備

○生活環境の整備

- ・水道未普及地域の飲料水施設の整備
- ・合併浄化槽設置の推進
- ・ごみの減量化、リサイクル意識の向上の推進
- ・消防・防災体制の強化（消防水利・施設等の整備）
- ・砂防・治山・地滑り対策事業の推進
- ・自主防災組織の育成と避難体制の確立
- ・デマンドバスの活用

○地域福祉の充実

- ・高齢者の生きがいづくり
- ・安心して、生活できる環境づくり
- ・地域サロンの充実

③自然環境に関すること

「美しい景観を活かした地域づくり」

○人と自然環境の共存

- ・ 棚田、自然公園等の整備
- ・ 沿道景観の整備
- ・ 耕作放棄地、放置竹林の整備
- ・ 被災箇所の復旧

④教育、文化に関すること

「伝統文化を活かした活気ある地域づくり」

○地域教育・文化の振興

- ・ 生涯学習の推進
- ・ 伝統文化の継承及び文化財の整備
- ・ スポーツ等の推進
- ・ 棕谷地区交流センターの活用

○地域づくり事業の推進

- ・ 元気な地域づくり推進事業

⑤地域交流に関すること

「交流を通じ生き生きとした夢のある地域づくり」

○地域内交流の促進

- ・ 地域住民参加による夏まつりの実施
- ・ スポーツ大会等による住民交流

○地域外交流の促進

- ・ 都市との交流の促進（イベント等の開催）
- ・ トンネルを活用した交流の促進
- ・ 案内板の整備（地域の紹介）

椋谷校区実施計画書

1. 産業振興に関すること

施策	具体的な取り組み	実施主体			す ぐ に 取 り 組 む	少 し 案 を 練 り な が ら	間 を か け て 時 間 を か け て
		行政	行政・ 私たち	私たち			
農林業の振興	集落営農の推進（農地の集約・機械の共同利用）			○			○
	農道・林道整備による農作業の効率化を図る		○			○	
	緑花木園の造成客土			○		○	
	奨励作物の推進		○			○	
	林内の作業道の開設			○		○	
産業・観光の振興	地場農産物の加工販売			○		○	
	グリーンツーリズムの推進			○		○	
担い手の育成	認定農業者の育成		○		○		
	新規就農者の確保（Uターン・Iターン）		○			○	
	地域外からの若者誘致			○		○	

2. 生活環境に関すること

施策	具体的な取り組み	実施主体			す ぐ に 取 り 組 む	少 し 案 を 練 り な が ら	間 を か け て 時 間 を か け て
		行政	行政・ 私たち	私たち			
道路交通の整備	県道の整備・改良		○			○	
	市道の新設・改良・維持・補修		○		○		
	赤道・青道の点検・整備		○			○	
	ガードレール・カーブミラーの整備	○				○	
	デマンドバスの活用		○			○	
生活環境の整備	水道未普及地域の飲料水施設の整備		○			○	
	合併浄化槽の導入			○	○		
	各種消防施設整備	○				○	
	自主防災組織の育成と避難体制の確立			○	○		
	外灯の改修・新設	○				○	
	沿道樹木の伐採・枝打		○			○	
	道路愛護の実施			○	○		
ゴミの減量化啓発		○		○			
地域福祉の充実	高齢者の生きがいづくり		○			○	
	声かけ運動			○	○		
	多世代交流の推進			○		○	
	地域サロンの活用		○		○		

3. 自然環境に関すること

施策	具体的な取り組み	実施主体			す ぐ ま に 取 り 組 む	少 し 案 を 練 り な が ら	間 じ つ く り 時 間 を か け て
		行政	行政・ 私たち	私たち			
人と自然 環境の共存	各種公園の整備		○			○	
	集落内景観の整備			○		○	
	沿道景観及び展望所の整備			○		○	
	景観整備計画の作成			○			○
	景観作物の栽培			○		○	
	棚田の保全活動		○		○		
	道路愛護の実施			○	○		
	ゴミ不法投棄対策			○		○	
	被災箇所の復旧		○		○		
	耕作放棄地・放置森林の整備		○			○	

4. 教育、文化に関すること

施策	具体的な取り組み	実施主体			す ぐ ま に 取 り 組 む	少 し 案 を 練 り な が ら	間 じ つ く り 時 間 を か け て
		行政	行政・ 私たち	私たち			
地域の教育・ 文化の振興	子供会活動			○	○		
	公民館活動			○	○		
	女性部活動			○	○		
	老人クラブ活動			○	○		
	風流・はんや舞の継承記録保存			○		○	
	歴史遺産の保全整備			○		○	
	椋谷地域交流センターの活用			○		○	
地域づくり 事業の推進	各種視察・研修会への参加			○		○	
	各種まつりの開催			○	○		
	イルミネーション			○	○		

5. 地域交流に関すること

施策	具体的な取り組み	実施主体			す ぐ ま に 取 り 組 む	少 し 案 を 練 り な が ら	間 じ つ く り 時 間 を か け て
		行政	行政・ 私たち	私たち			
地域内交流 の促進	地域住民参加による夏まつりの実施			○		○	
	スポーツ大会等による住民交流			○	○		
	各種交流活動支援		○		○		
	花見の開催			○		○	
地域外交流 の促進	絵になる案内板と地域のアピール（紹介）			○		○	
	都市との交流の促進		○			○	

星野地区いきいき振興会 地域振興計画書

計画期間

令和6年度～令和15年度

令和6年4月

星野地区いきいき振興会

目次

第1	はじめに	P 2
	1 目的	
第2	地域の概況	P 2
	1 位置・地勢等	
	2 人口・世帯	
第3	星野地区のめざす将来の姿	P 4
	1 基本理念	
	2 基本目標	
第4	将来の姿の実現に向けて	P 5
	1 取り組み内容	
	2 推進体制	
	3 取り組みのまとめ	
付属資料	P 13
	1 星野地区地域振興計画策定の主な経過	
	2 星野地区地域振興計画策定委員名簿	

第1 はじめに

1 目的

この計画は、急激に少子高齢化が進行する星野地域の情勢に対応するため、「自らのために自らの地域のことは、自らの手で」を基本に、星野地区の住民自らが主体的に、地域の様々な現状課題を見出しその解決策を模索しつつ、具体的な実践に取り組むとともに、行政との協働により豊かな地域づくりに資することを目的とします。

第2 地域の概況

1 位置・地勢等

星野地区は星野村の中央部に位置し、3つの行政区（星野1区、星野2区、星野3区）があります。

星野1区は県道八女香春線に沿って集落が点在しており、底払・柳原・本星野・寄・板橋・田の原の6集落7隣組で構成されています。

それぞれの集落に集会施設が整備され、コミュニティ活動・公民館活動がなされています。

県道に沿って水田が散在し、本星野集落の南東部一帯には広大な茶畑が開けています。

本星野地区には、かつて星野郷を治めていた星野氏が居を構えた館跡と御良八幡宮があり、八幡宮に伝わる御良八幡太鼓は、星野小学校において伝統文化の伝承活動として授業に取り入れられています。

田の原地区には、星野中学校があります。

星野2区は、星野村の中心に位置し、市役所支所、農協支所等の公共（公共的）施設に加え、郵便局、銀行出張所等の機関が集中しており、星野川をはさんで南部の麻生地区には総合保健福祉センター、若者定住促進住宅、十籠地区には市営住宅があります。

十籠地区は、かつては飲食店が立ち並び村の中心的な賑わいの場所でしたが、景気の低迷と後継者不在でほとんどが廃業、空き店舗となっています。

池の山地区には、星の文化館、茶の文化館、平和公園、池の山キャンプ場を有する

星のふるさと公園があり、年間多くの入込客があります。

十籠地区の北部から東部にかけて棚田状の水田が開け優れた景観ですが、近年荒廃が目立っています。

また、宮蔵から見下ろす眺望は素晴らしく展望スポットの一つです。

東部は山間部に位置し、集落は緩傾斜地に点在しています。

この地域を代表する景勝地である龍川内溪谷、木浦谷は神秘的な景観を醸し出し、特に船着き岩、室山熊野神社は、近年、パワースポットとして注目されています。

星野3区は、かつて星野金山の全盛期には最も活力があった地域です。

県道浮羽石川内線沿いに集落が形成されており、農地は中央から西部にかけて水田が開けています。また星野小学校、星野保育所といった公共施設や、古陶星野焼展示館や星野民芸の工房があります。

鎌倉時代から伝承されてきた伝統芸能「風流はんや舞」（福岡県指定無形民俗文化財）については、現在「下郷」「横回り」「中通り」「上郷」の4地区により奉納され、星野1区は「横回り」の風流・はんや舞を、星野2区及び3区は「中通り」の風流及び、はんや舞がそれぞれ伝承されています。少子高齢化により演者の不足が生じており継承も厳しい局面を迎えています。

2 人口・世帯

本地区の人口は令和5年8月末日現在（住民基本台帳）で706人、世帯数は334世帯となっており、人口は減少が続いています。

年齢階層別の人口（割合）は、0～14歳の年少人口が45人（6.4%）、15～64歳の生産年齢人口が310人（43.9%）、65歳以上の老年人口が351人（49.7%）です。

（令和5年8月末日現在）

行政区		人口	世帯数
星野1区		264人	105世帯
星野2区	西支部	200人	106世帯
	東支部	65人	37世帯
星野3区		177人	86世帯
合計		706人	334世帯

第3 星野地区のめざす将来の姿

1 基本理念

星野地区のまちづくりの基本理念を、次のとおり掲げます。

心豊かに 支えあい 安心して健やかに暮らせる ひと・自然に優しいまちづくり

少子高齢化と過疎化が進む中で、一人ひとりが心豊かに互いに認めあい、支えあいの心を持ちながら地域とかかわり、安全で、安心して健やかに暮らせるやさしいまちづくりを目指します。

また、本地区の豊かな自然・歴史・受け継がれてきた伝統文化を大切な財産として守り育てるとともに、地域内外の人々との交流や連携を深めながら地域に元気を生み出し、「自らのために自らの地域のことは、自らの手で」を基本に、地域住民と行政が協働して活力を生み出す、楽しい潤いのあるまちづくりを目指します。

ひとりひとつの地域貢献を目標に自らが自主的、主体的に事業運営に関わる仕組みづくりを提唱します。

2 基本目標

1 安全に生活できる美しい地域づくり

2 健やかでいきいきと安心して暮らせる地域づくり

3 地域で子どもを育てる地域づくり

4 伝統文化と新しい文化が活きる地域づくり

5 人と自然が共生し暮しやすい地域づくり

6 みんながふれあい助け合い生きがいある地域づくり

第4 将来の姿の実現に向けて

1 取り組み内容

将来の姿を実現させるために6つの基本目標を定め、現況と課題・主要施策を示し、地区住民が策定したという誇りを共有し、取り組んでいきます。

主要施策に対する具体的な取り組みについては実施時期等を示し、実施計画書としてまとめています。

1 基本目標：安全に生活できる美しい地域づくり

現況と課題

主要生活道路は、幅員が狭い部分の早期改良が望まれています。また、道路の支障木の伐採とあわせて環境に配慮した落葉広葉樹などの植栽や、道路凍結防止などといった明るい環境づくりに配慮した計画や、危険個所の早期解消が求められています。

コウモリ岩地区はコンクリートを吹き付けて落石防止が施されていますが、経年の風化による県道への落石事故が懸念されています。

池の山地区は地すべり地域に指定され、対策工事が実施されました。

消防は、常備消防としての八女東消防署星野分署があります。

主要施策項目

- 1 生活関連道路整備推進事業
- 2 防災関連事業
- 3 防犯対策事業

2 基本目標：健やかでいきいきと安心して暮らせる地域づくり

現況と課題

少子高齢化が進行し65歳以上が地区人口の49.7%を占めています。

特に高齢者ひとり暮らし世帯への安否確認のシステムの検討や交通移動手段の確保など高齢者を地域で支える体制づくりを推進します。

なお、人生100年時代を迎え元気で長生き「健康長寿」を実践するために、年齢に応じた健康づくり運動やと住民健診の適正受診を推進します。

主要施策項目

- 1 高齢者の日常生活の支援事業
- 2 「健康長寿」を実践するため健康づくりの推進事業

3 基本目標：地域で子どもを育てる地域づくり

現況と課題

子ども会は、星野1区子ども会、白竹子ども会（星野2区）、星野3区子ども会が組織されていますが単位の活動が低迷しており子ども会組織の一本化が望まれます。

「地域の子どもは地域が育てる」という視点に立った青少年健全育成を基本に、引き続き、様々な活動への支援体制を構築する必要があります。

主要施策項目

- 1 青少年健全育成事業
- 2 子育て支援事業

4 基本目標：伝統文化と新しい文化が生きる地域づくり

現況と課題

鎌倉時代から受け継がれてきた伝統芸能「風流はんや舞」（福岡県指定無形民俗文化財）は、「下郷」「横回り」「中通り」「上郷」の4地区で伝承され、星野1区は「横回り」の風流・はんや舞を、星野2区及び3区は「中通り」の風流及びはんや舞をそれぞれ伝承していますが、少子化により子役を含め演者の確保に窮しており早急な対策が必要です。

的別当の素盞鳴（すさのお）神社に伝わる「こっばげ面（祇園まつり）」は、現在、有志により行われ、珍しい風習としてテレビ番組等で取り上げられるようになりました。

千々谷地区には茶を保存・運搬する壺として、また久留米藩の御用窯として発展した古美術品である星野焼を展示する美術館として「古陶星野焼展示館」があります。

主要施策項目

1 文化活動の継承

5 基本目標：人と自然が共生し暮らしやすい地域づくり

現況と課題

水道は、十箆地区簡易水道、本星野地区営農飲雑用水施設及び仁田原地区営農飲雑用水施設により地区全体が給水区域となっています。

可燃ごみは全地区収集区域となっており、不燃ごみは分別収集が定着していますが、高齢者のごみ出しに支援が必要となってきました。

河川については、水量の減少により水質の悪化が進みつつあります。

主要施策項目

1 環境保全啓発

2 景観保全

6 基本目標：みんながふれあい助け合い生きがいある地域づくり

現況と課題

少子高齢化とともに隣組の構成世帯数も減少し、隣組の再編が課題となっています。産業については、茶と水稻を組み合わせた経営が基本ですが、専業農家は数軒で、ほとんどが2種兼業農家です。また、近年は不在地主が増加しており荒廃農地が増加しています。

高齢者の持つ技能、能力を活用した生産活動を創出し、高齢者の生きがいづくりにつなげていくことが必要です。

合瀬耳納トンネルの開通により八女市への流入人口は増加し、星野地区の中心部に位置する星のふるさと公園の観光入込客を取り込む有効方策の創出が大きな課題となっています。

生きがいづくりについては、高齢者のひとり暮らしをはじめ全体的に高齢世帯が増加する中、閉じこもりにならないように、地域で生きがいづくり活動を推進していく必要があります。

星野1区は地域の交流事業として、夏まつりを開催しています。

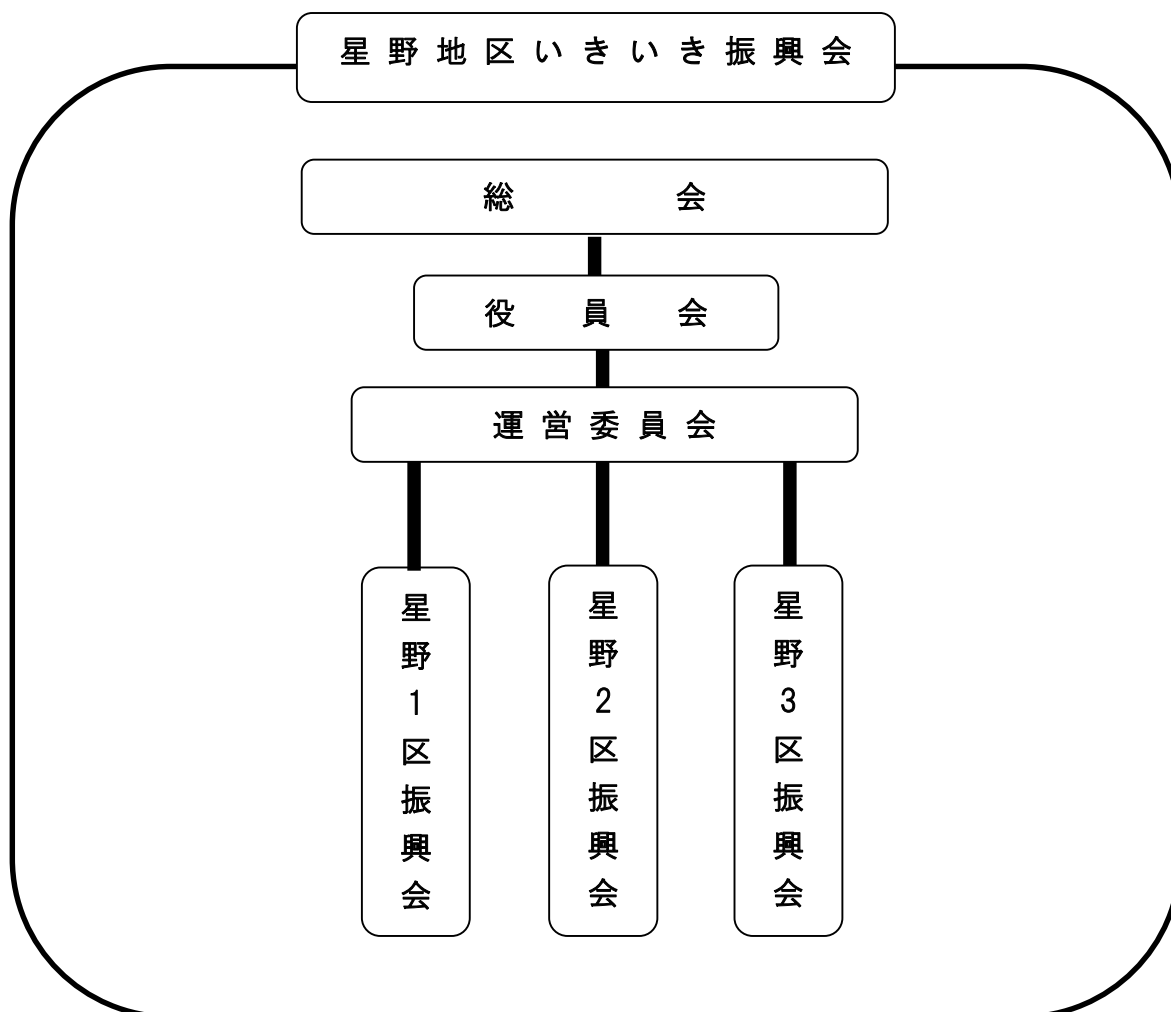
今後は星野地区全体のメインの交流事業としての開催を視野に検討する必要があります。

また、今後は、地区住民相互の交流促進と合わせて、近年、都市からの定住の動きもあり、都市部住民との交流事業を取り入れ、グリーンツーリズムの推進や空き家対策とともに地域活性化に結び付ける方策が求められています。

主要施策項目

- 1 地域運営効率化推進
- 2 生きがいづくり活動の推進
- 3 交流イベント
- 4 グリーンツーリズムの推進
- 5 空き家の活用対策

2 推進体制（部会活動内容）



【部会活動の内容】

- ① 生活環境・・・生活環境整備、防火・防災・防犯、交通安全、環境保全、分別収集、ごみ減量対策
- ② 公民館・・・生涯学習、趣味、娯楽、人権学習、文化伝承
- ③ 教育健康福祉・・・青少年育成、子ども会活動推進、子育て支援、高齢者福祉、健康づくり
- ④ 地域活性化部会・・・地域づくり事業、イベントの企画・実施

3 取り組みのまとめ

基本目標 1. 安全に生活できる美しい地域づくり

区分	具体的な取り組み	実施主体	関係行政部署
生活関連道路整備推進事業	・道路沿線立木の伐採と景観木等の植栽	協働	星野支所建設係
	・無理のない道路愛護活動と日常的に利用する道路の自主的な愛護活動	住民	
防災関連事業	・農業用水路の防火用水源の活用	協働	星野支所総務係
	・防火啓発活動の推進	住民	
	・地域防災組織による防災意識を高めるための取り組み	協働	星野支所総務係
	・ハザードマップの作成	協働	星野支所総務係
防犯対策事業	・防犯灯の設置	協働	星野支所総務係
	・防犯カメラの設置	協働	星野支所総務係
	・声かけ運動の推進	住民	

基本目標 2. 健やかでいきいきと安心して暮らせる地域づくり

区分	具体的な取り組み	実施主体	関係行政部署
高齢者の日常生活の支援事業	・高齢者世帯の安否確認	住民	
	・人生100年時代を迎え健康寿命のための健康づくり	住民	
	・日常生活支援	住民	
	・介護予防のための軽運動の推進	住民	
	・地域サロンの充実・・・受身から自立のための取り組み	住民	
「健康長寿」を实践するため健康づくりの推進事業	・ウォーキングのすすめ	住民	
	・健康教室の開催などの生活習慣病予防対策	協働	星野支所市民生活福祉係
	・適正受診の呼びかけ	協働	星野支所市民生活福祉係
	・ラジオ体操の実施	住民	

基本目標 3. 地域で子どもを育てる地域づくり

区分	具体的な取組み	実施主体	関係行政部署
青少年健全育成事業	・子ども会活動の支援	住民	
	・声かけとあいさつ運動	住民	
子育て支援事業	・子ども食堂の支援	住民	

基本目標 4. 伝統文化と新しい文化が活きる地域づくり

区分	具体的な取組み	実施主体	関係行政部署
文化活動の継承	・御良八幡太鼓伝承	住民	
	・風流はんや舞の保存伝承活動	住民	
	・地域にまつわる歴史、文化伝承のための組織づくり	協働	星野支所 総務係
	・室山熊野神社の参拝案内の整備及び神社周辺整備（古道含む）	住民	
	・歴史ロマン古道オルレコースの選定 （チンのウバ塚～星野焼展示館～室山～船着き岩～祇園～御旅所～浄円寺の檜）	住民	

基本目標 5. 人と自然が共生し暮らしやすい地域づくり

区分	具体的な取組み	実施主体	関係行政部署
環境保全啓発	・一人暮らし高齢者のごみ回収支援	住民	
	・マイバック利用のすすめ	住民	
	・合併処理浄化槽の設置	協働	星野支所 建設係
景観保全	・河川公園の清掃等の愛護活動	住民	
	・沿道景観修景のための広葉樹等の植栽	住民	
	・自主的で無理のない道路愛護	住民	
	・環境美化作業（沿道不法投棄対策及び景観整備）	住民	

基本目標 6. みんながふれあい助け合い生きがいある地域づくり

区分	具体的な取組み	実施主体	関係行政部署
地域運営効率化推進	・ 小規模隣組の再編	各区	
	・ 区役員の若がえりによる企画力行動力UP（消防団組織機の活用）	各区	
生きがいづくり活動の推進	・ 野菜、山菜栽培の振興	有志によるチーム	
	・ 休耕田を活用した軟弱野菜等の開発研究	有志によるチーム	
	・ 農林産物の活用による商品開発、販路の確保	有志によるチーム	
	・ 荒廃農地を活用した新規作物の検討（栗園・柿園・ザクロ園等の形成）	有志によるチーム	
	・ 高齢者の一坪野菜作り活動のすすめ	有志によるチーム	
	・ 切り枝用花木の植栽	有志によるチーム	
交流イベント グリーンツーリズムの推進	・ 地域住民の交流を創出するための夏（冬）まつりの開催	住民	
	・ 星のふるさと公園と連動した交流事業（天文ショーに合わせた星まつり）	協働	星野支所 地域振興係
	・ 龍川内溪谷の活用（森林浴オルレ・沢のぼりイベント）	協働	星野支所 地域振興係
	・ グリーンツーリズムを活かした都市との交流事業の推進（先例地視察の実施）	協働	星野支所 地域振興係
	・ 先例地視察の実施	住民	
空き家の活用対策	・ 空き商店地域の復興についての研究	住民	
	・ 空き家の活用検討	住民	

付属資料

1 星野地区地域振興計画策定の主な経過

年月日	会議名	主な内容
R5.4.24	第1回星野地区まちづくり協議会	○地域振興計画の策定（見直し）について ・計画策定提案
R5.6.19	星野地区いきいき振興会第1回役員会	○地域振興計画の策定（見直し）について ・本年度中の計画策定を確認
R5.7	住民アンケート	○まちづくりアンケートの実施 ・7月末回収
R5.8.31	星野地区いきいき振興会三役会議	○住民アンケートの取りまとめ
R5.9月～11月	星野地区いきいき振興会三役により素案作成	○各地区振興計画の素案作成
R5.10.13	第2回星野地区まちづくり協議会	○地域振興計画の策定（見直し）について ・計画策定進捗状況報告
R5.12.18	星野地区いきいき振興会三役会議	○地域振興計画の策定（見直し）について ・計画案検討
R6.1.10	第3回星野地区まちづくり協議会	○地域振興計画の策定（見直し）について ・計画策定進捗状況報告
R6.2.1	星野地区いきいき振興会第2回役員会	○地域振興計画の策定（見直し）について ・計画案検討
R6.2.15	第4回星野地区まちづくり協議会	○地域振興計画の策定（見直し）について ・計画案検討
R6.4.	星野地区いきいき振興会令和6年度定期総会	○地域振興計画承認（予定）

上郷村地域振興計画

～ “キラリ” と輝く地域づくり～



計画期間 令和6年度～令和15年度

令和6年4月

上 郷 村

目次

第1	はじめに	2
	1 計画策定の趣旨（目的）	
第2	上郷地区の概況及び課題	3
	(1) 位置	
	(2) 自然	
	(3) 人口	
	(4) 歴史文化	
	(5) 産業	
	(6) 上郷地区が抱えている主要課題	
第3	上郷村のめざす将来の姿	10
	1 基本理念	
	2 基本目標	
	基本目標 1 暮らしやすい環境づくり	
	基本目標 2 地域資源の有効活用	
	基本目標 3 美しい上郷村の景観形成	
	基本目標 4 まつり、伝統文化等の伝承	
	基本目標 5 交流による地域の活性化推進	
第4	将来の姿の実現に向けて	11
	1 取り組み内容	11
	2 住民参加の方針	19
	3 具体的な取り組み	20

第1 はじめに

1 計画策定の趣旨（目的）

上郷地区では、『“キラリ”と輝く地域づくり』を目標に掲げ平成26年4月に「上郷村地域振興計画」を見直し、地域課題の解決に向け、様々な取り組みを進めています。

この度、地域振興計画見直しから10年を経過したことに伴い、改めて地域の現状と課題を踏まえて、地域振興計画の見直しを行いました。この計画は、「上郷村」が、地域の良さや課題について話し合い、新たな地域づくりのための構想を会員共通の指針としてとりまとめたものです。

この計画の対象区域は、上郷1区行政区（11・12・13・14・15各支部）とし、会員はこの地域の住民で構成します。

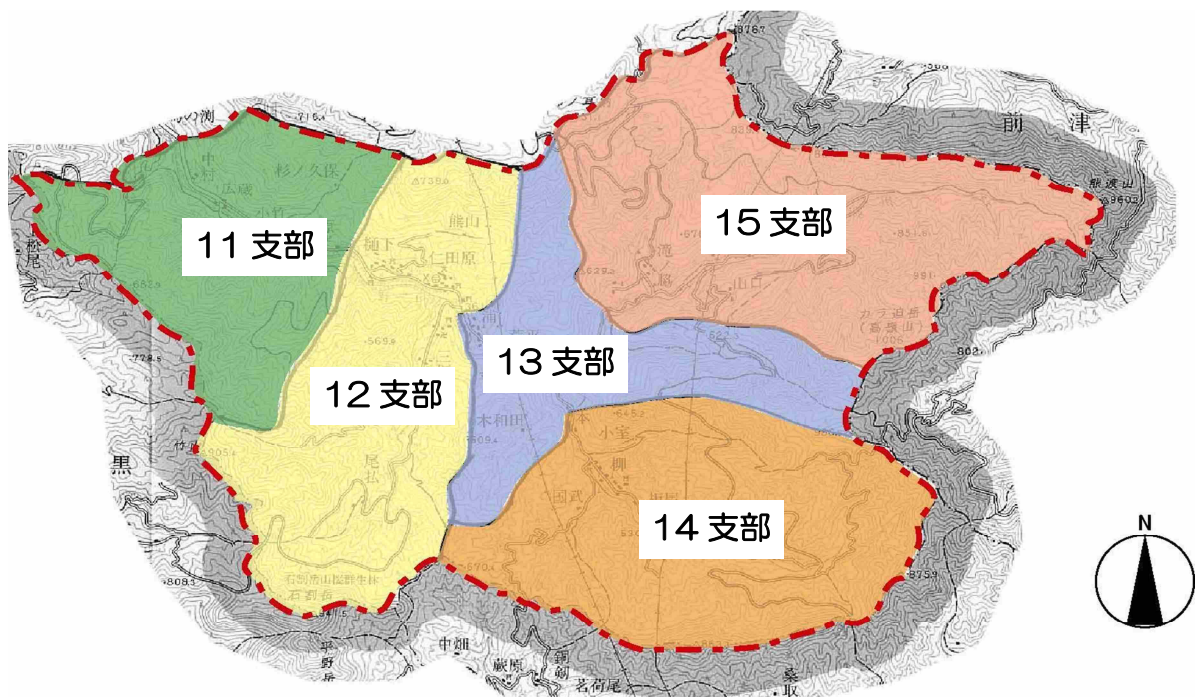
※平成19年4月1日の行政区再編前の旧行政区を各支部としています。

☆ 計画期間

令和6年度～令和15年度（2024～2033）

☆ 計画策定の経過

- ・平成17年6月17日策定
- ・平成26年4月13日見直し
- ・令和6年3月6日見直し



第2 上郷地区の概況及び課題

(1) 位置

上郷地区は八女市星野村の東部に位置し、大分県と境をなす地域で、東端には星野中学校の校歌にもうたわれている熊渡山の国有林があり有効な水源の森となっています。

南側には星野村最高峰のカラ迫岳や石割岳などの山々に囲まれ、中央部には星野川が流れており自然豊かな地域です。

中心部には、平成19年3月に廃校した仁田原小学校を上郷地域交流センターとして活用し、一室に「上郷村」の事務所を配置しています。



(2)自然

春は、ヤマザクラやミヤシノシャクナゲ園、夏は、清流星野川での川遊びやヤマメ釣り、乱舞するホタルの観賞等も楽しめます。秋は、石割岳やカラ迫岳の紅葉登山など、美しい景観が楽しめる地域です。



▲ミヤシノシャクナゲ園



▲星野川



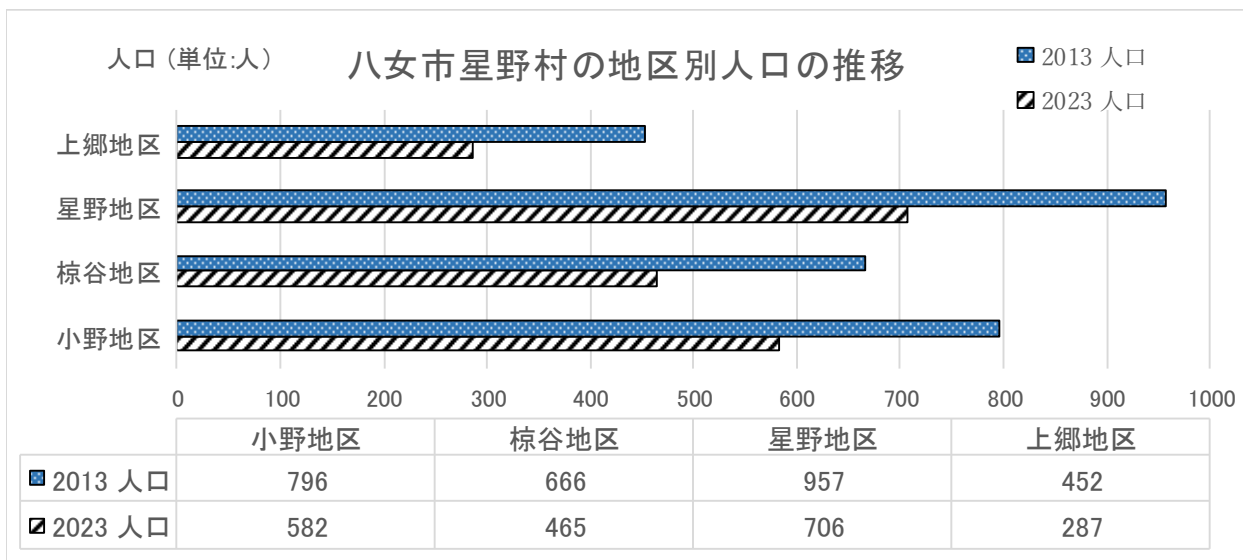
▲石割岳



▲カラ迫岳

(3)人口

上郷地区は人口 287 人、世帯数 144 世帯の地域です。現在、八女市星野村は旧小学校区単位で4つの地区に分かれていますが、上郷地区は星野村の中でも人口が最も少なく高齢化率が最も高い地区となっています。しかしながら、田舎の良さを求めて空き家等に移住し起業される方や山村留学生の実親の皆さん等を通じて、上郷地区で行われているイベントにも多くの方が参加されるなど交流人口は増加傾向にあります。



◇人口・世帯数・高齢化率（星野村）

単位：人 %

地区別	人口	世帯数	65歳以上	高齢化率
小野地区	582 (796)	248 (259)	274 (271)	47.1(34.0)
椋谷地区	465 (666)	189 (202)	186 (229)	40.0(34.4)
星野地区	706 (957)	334 (374)	351 (355)	49.7(37.1)
上郷地区	287 (452)	144 (168)	148 (181)	51.6(40.0)
計	2,040(2,871)	915(1,003)	959(1,036)	47.0(36.1)

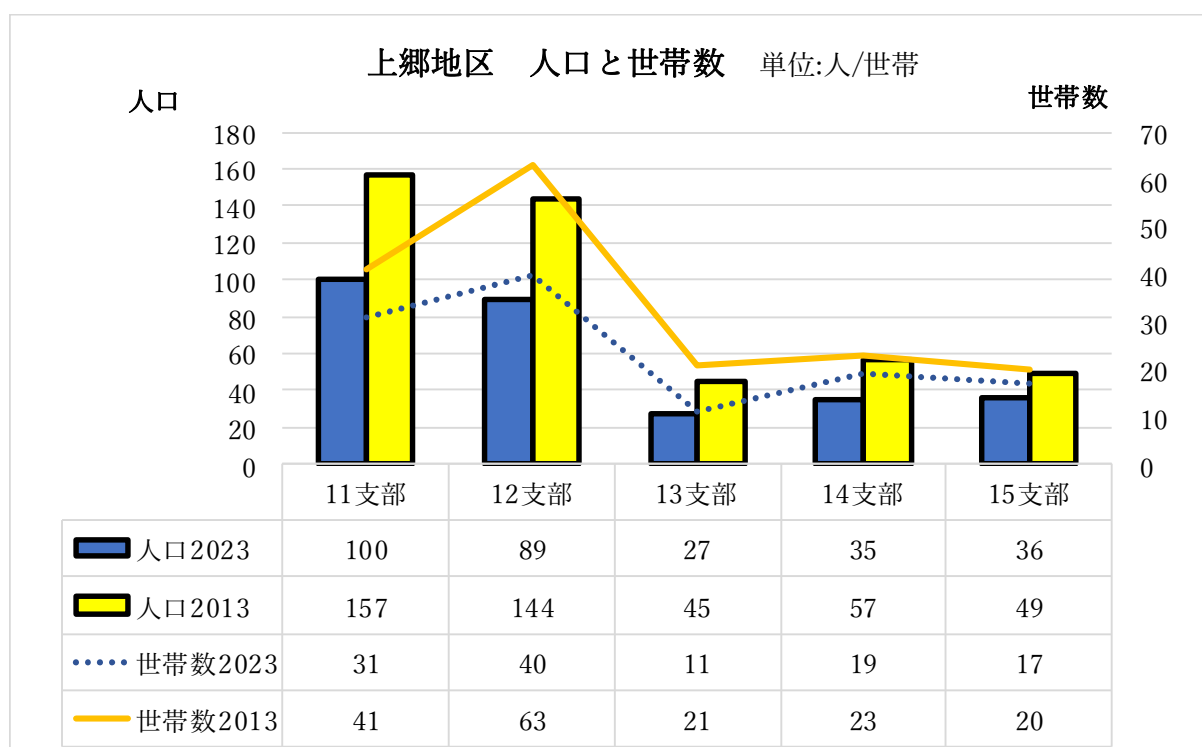
令和5年8月末現在（ ）は10年前

◇人口・世帯数・高齢化率（上郷地区）

単位：人 %

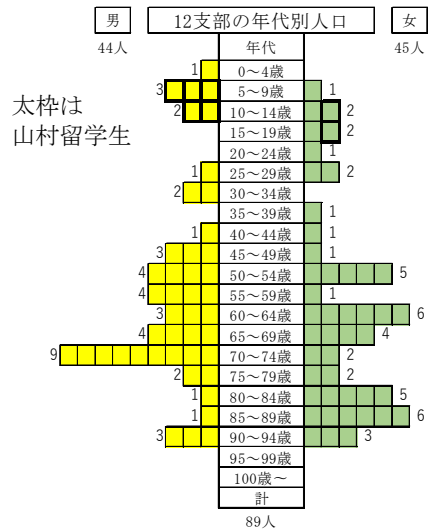
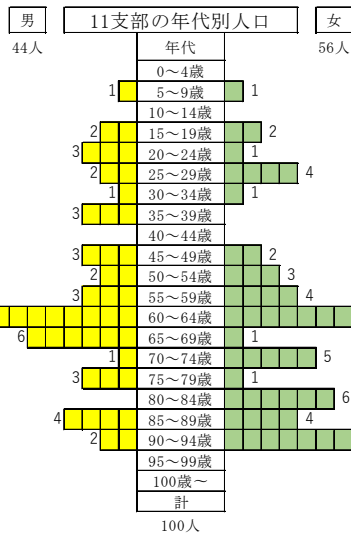
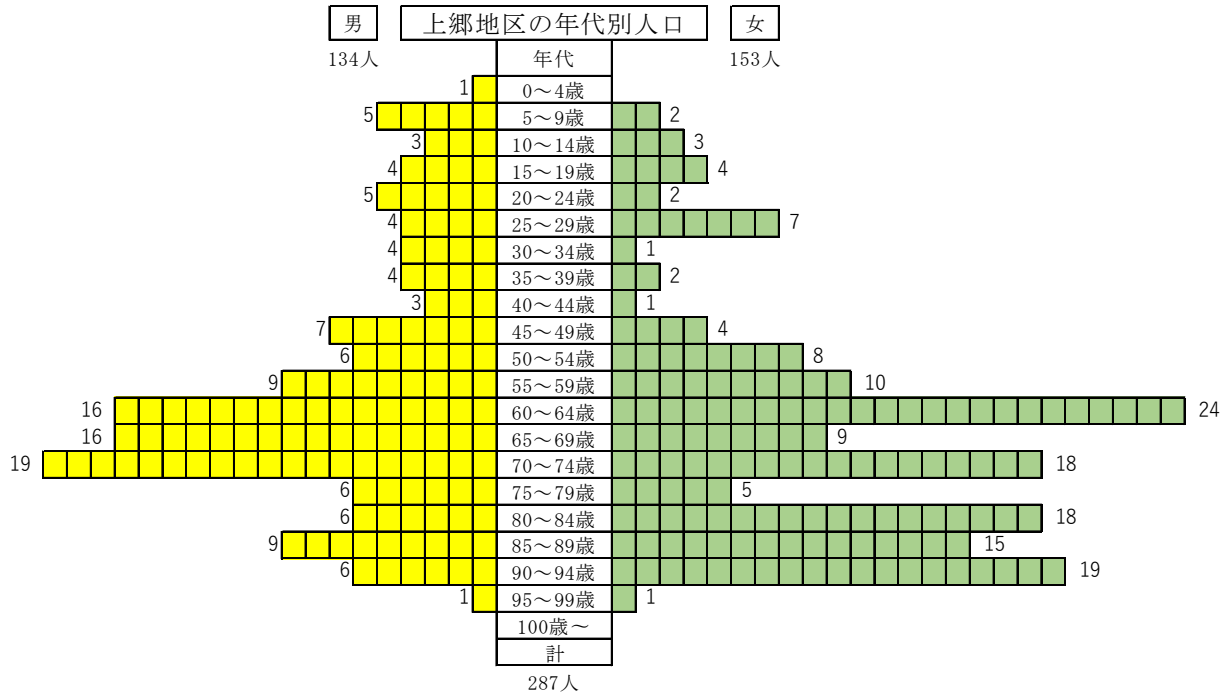
支部別	人口	世帯数	65歳以上	高齢化率
11支部	100 (157)	42 (41)	40 (53)	40.0(33.8)
12支部	89 (144)	49 (63)	42 (55)	47.2(38.2)
13支部	27 (45)	15 (21)	19 (24)	70.4(53.3)
14支部	35 (57)	19 (23)	27 (31)	77.1(54.4)
15支部	36 (49)	19 (20)	20 (18)	55.6(36.7)
計	287 (452)	144(168)	148(181)	51.6(40.0)

令和5年8月末現在（ ）は10年前

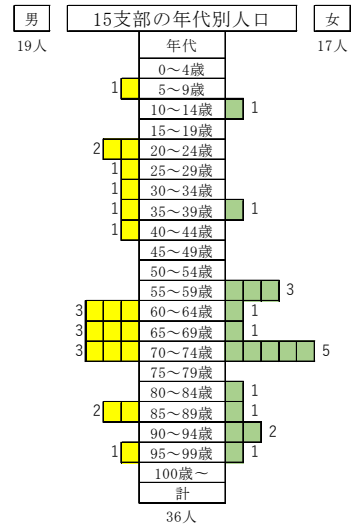
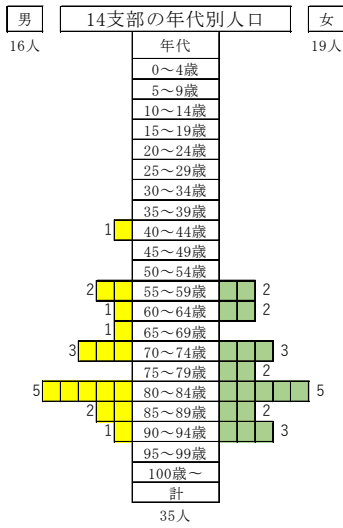
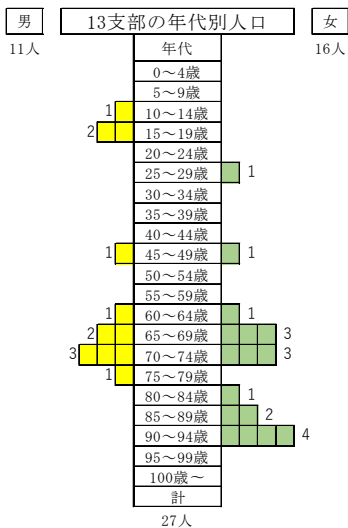


2023 世帯数は、会費徴収分、山村留学世帯は、含まない。

上郷地区人口ピラミッド



太枠は
山村留学生



(4)歴史文化

上郷地区は、黄金山正念寺、金照寺、金山守護神としての金山神社(山の神)、旧久留米藩・天領日田国境石、三坂の棚田の石垣に使われている石臼など、金山で栄えた地域であることが忍ばれます。また、星野氏の居城(山城)であった白石城址もあります。

山岳信仰の盛んな頃に修行道として滝に打たれる荒行が行われていた「不動の滝」は、涼を求める人たちの穴場になっています。

伝統文化では、福岡県指定無形民俗文化財の「風流・はんや舞」をはじめ、金山神社大祭や平野不動尊祭・年の神神社祭、三坂祇園神社大祭などの伝統的な祭りのほか、しめ縄等の正月飾りを燃やして無病息災を祈る鬼火焚きも継承されています。

【上郷村関連文化財】

No.	文化財の名称	区分	指定	所在地
①	はんや舞	無形民俗文化財	県	星野村一円
②	桁山のカヤの木	天然記念物(植物)	県	桁山
③	旧久留米藩・天領日田国境石	史跡	県	熊渡
1	金山神社	史跡	市	山の神
2	石臼	有形民俗文化財	市	三坂(正念寺)
3	ゆり鉢	有形民俗文化財	市	三坂(正念寺)
4	星野金山絵図	有形民俗文化財(歴史資料)	市	星野支所
5	初代庄屋(樋口越前の守実長)墓	史跡	市	浦
6	浦館跡	史跡	市	浦
7	平野不動尊像	史跡	市	平野
8	唐迫の川のり	天然記念物(植物)	市	唐迫
9	石割岳山桜群生林	天然記念物(植物)	市	尾払



▲浦館跡



▲平野不動尊像



▲初代庄屋(樋口越前の守実長)墓



▲旧久留米藩・天領日田国境石



▲桁山のカヤの木



▲金山神社

(5) 産業

上郷地区の主要な産業は農林業です。農業は、お茶をはじめ、棚田米、ニオイヒバ・サカキ等の切り枝、トマトの生産や季節的には糶摺工場も稼働しています。

林業は、明治初期から続く拡大造林によるスギ・ヒノキの人工林が主ですが、近年価格の低迷や後継者不足により、減退傾向にあります。しかしながら、上郷地区の林分は伐期を迎えた優良林分が多い中で、高性能林業機械の導入や林道整備等により長期スパンで考えれば上向き傾向が見込まれます。商工観光では、喫茶花里菜、農家民宿緑の洞、石割岳ふもとキャンプ場、やまめの里エノハ荘、自園自製の二田製茶等が賑わっています。



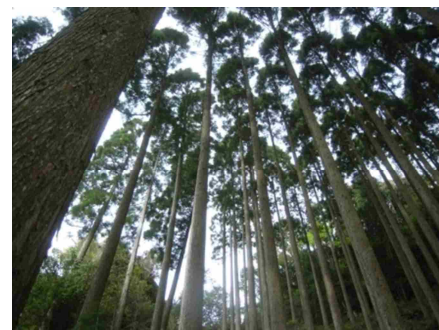
▲棚田



▲茶畑



▲ニオイヒバ



▲杉の人工美林



▲やまめの里 エノハ荘



▲石割岳ふもとキャンプ場

(6)上郷地区が抱えている主要課題

上郷地区が抱えている課題の原因は、少子高齢社会に陥ったことが原因ですが、これは上郷地区に限らず八女市内外が直面している課題であります。八女市に於いても少子高齢対策のためにいろんな施策が展開されていますが、人口減には歯止めがかからないのが実態のようです。

上郷地区が抱える諸問題解決については、少子高齢社会とうまく付き合いながら、自助・共助・公助・互助の思いで「上郷村」を支えていくことが大切ではないでしょうか。また、これからの地域づくりを進めていくために、これまで培ってきた豊富な知識と経験を持った高齢者の皆さんのご支援が求められています。

地域の皆さんが、「他人事」でなく「自分事」としてとらえ、自分たちでできる範囲で無理せず情熱と愛情をもって事に臨む姿勢を大切にしながら、「上郷村」の振興発展に努めて行く必要があります。

自分たちでできる事、自分たちにしかできない事、自分たちがなすべき事は何かを改めて考えて行動していく必要があります。

～西日本新聞記事 引用～

○国立社会保障、人口問題研究所が2050年の推計人口を発表しました。

八女市の人口は37,097人（現在60,244人）となる見込み。

※27年後は、約23,000人減

○推計を見て悲観するばかりではいけない。住む人が減り、老いていくことを前提とした地域づくりの知恵を絞りたい。

何より優先したいのは、私たちが住んでいる地域で末長く元気で暮らしていくための方策である。

今こそ、暮らしを起点に未来図を描く過程を大切にすべきだ。

「暮らしを楽しむ」ことが実感できるような地域づくりを進めていくことが大切だろう。

これからは、「楽しさ主体型」への転換を進めていきましょう。

○日本の町内会の歴史は1937年に始まった。いざという時の助け合いを目的として整備が進んでいったそうです。

自治会は地域コミュニティーの核のような存在で「遠くの親戚より近くの他人」ということわざがあるように、困ったときの助け合いや災害時に安否確認や救助ができるのはご近所のメンバーです。

「私たちが住んでいる地域をもっとよくしよう」「住民の困りごとに、力を合わせて解決しよう」というのが自治会の目的ではないでしょうか。

第3 上郷村のめざす将来の姿

1 基本理念

「上郷村」の地域づくりの基本理念を、次のとおり掲げます。

住んで安心、歩いて安全、笑顔あふれ、楽しく生活できる地域づくり

豊かな自然と歴史、受け継がれてきた伝統文化を守り、地域住民がお互いに助け合い、元気で活気のある「上郷村」をつくることが望まれています。

目標到達のため創設当時からの《上郷村憲章》を基本に、地域づくりを進めていきます。

《上郷村憲章》

1. 一人一人の立場に立ち、笑顔が見える地域づくり
2. 一人一人が役割を持ち、協働でつくる地域づくり
3. 一人一人のエネルギーが集まり、自立できる地域づくり

地域づくりのテーマとして

「キラリと輝く」地域づくりを掲げます。

“キ” きれいな自然に囲まれた

“ラ” 楽園で

“リ” リラックスして暮らせる上郷村

2 基本目標

1 ぐらしやすい環境づくり

2 地域資源の有効活用

3 美しい上郷村の景観形成

4 まつり、伝統文化等の伝承

5 交流による地域の活性化推進

第4 将来の姿の実現に向けて

1 取り組み内容

将来の姿を実現させるために5つの基本目標を定め、現状と課題・施策の基本方針を示し、上郷地区住民が策定したという誇りを共有し、取り組んでいきます。

基本目標1：ぐらしやすい環境づくり

〔現状と課題〕

【自然災害】

- ・台風、大雨時の山腹崩壊や道路崩落、落石、暗梁閉塞によるのり面崩壊等の危険箇所が多く心配です。降雪時には、グレーダ等による除雪作業が必要な年もあります。また、電線・電話線等への倒木による停電等が発生しています。



▲台風災害



▲集中豪雨による土砂災害

【道路事情】

- ・道路が狭くカーブも多く危険な箇所が散在するので、安心・安全な道路整備が求められています。今後は、県道・市道・林道を接続しネットワーク化することにより、災害時等に於いても、う回路として利用が可能となり山間地域の孤立防止等にも寄与できる効率的かつ効果的な路網の構築が必要となっています。

【福祉対策】

- ・一人暮らしや高齢者のみの世帯も多くなっています。災害時の避難や日常の買い物、ゴミ出し等誰もがいつまでも不安なく暮らせる地域をつくるために、地域連携できるコミュニティーの形成が必要となっています。
- ・シニアクラブ(旧老人クラブ)の存続そのものが危うくなっている中で、高齢者の方が集う機会を提供し元気で長生きできるように地域サロンの開催が必要となっています。



▲地域サロン



▲民生委員・福祉委員合同会議

【防犯対策】

- ・盗難・不法投棄等様々な犯罪が多様化する中で、登下校の見守りを含めた地域ぐるみの防犯体制が必要となっています。



防犯カメラ

【防災対策】

- ・消防団員も減少する中で災害時の対応が心配です。これからは特別団員・自衛消防隊との連携協強化が必要となっています。また、自主防災組織の育成に向けての検討が必要となっています。



▲自衛消防隊



▲土のう作り

〔施策の基本方針〕

- ① 防犯・防災対策の推進
- ② 地域福祉の推進
- ③ 交通安全対策

基本目標 2：地域資源の有効活

〔現状と課題〕

【自然景観】

- ・石割岳やカラ迫岳をはじめ、山城である白石城址(城山)等の山々、清流星野川や滝などの自然的資源の保全が求められている中、安心・安全に登山や散策ができるように八女市と地元との協働による登山道等の環境整備が必要とされています。



▲カラ迫岳山開き



▲清流星野川

【昔ながらの手作りの味】

- ・昔ながらの里山の食文化として伝承されてきた食の大切さを伝えていくことが求められています。

※こんにゃく・鯖寿司・里いも饅頭・高菜の漬物等々



▲さば寿司



▲里芋まんじゅう

〔施策の基本方針〕

- ① 自然景観の保全
- ② 里山の食文化の伝承

基本目標3：美しい上郷村の景観形成

〔現状と課題〕

【道路愛護】

- ・道路愛護(景観整備)に参加できる住民が少子高齢化に伴い年々減少しており、地区割等の検討が必要となっています。また、八女市との協働活動等も一部の地区で取り入れられていますが、全体事業としての取り組みも検討する必要があります。

人口減により作業ができない箇所については行政に対応していただいておりますが、年々『公助』の区間が増加しています。



【分別収集・不法投棄防止】

- ・資源ゴミ分別収集が月一回行われていますが、高齢者の方の持ち込みについては苦慮されているところもあり、対策が必要となっています。また、山間部への不法投棄対策として地域での監視活動が必要となっています。



▲集落ごとの分別収集



▲不法投棄

【農用地等の荒廃】

- ・農地等の荒廃地が目立ってきています。

そのため、中山間地域直接支払制度等の補助事業を活用しながら地域づくり活動と連携して集落営農を進め荒廃地防止に努めていくことも必要となっています。



▲景観作物等の植え付け コスモス・ひまわり

【美しい村の形成】

- ・平成16年から始まった「上郷イルミネーション」は、支部ごとに思考を凝らしたイルミネーションが夜空に輝き、子どもからお年よりまで楽しめ、寒い冬を温かい気持ちにさせると大変好評であり、継続が求められています。



年末年始を彩るイルミネーション

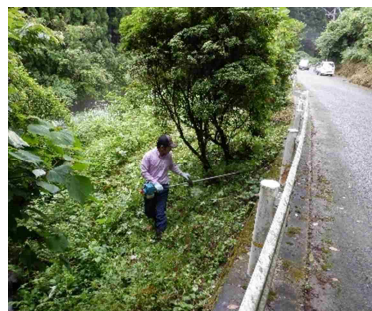
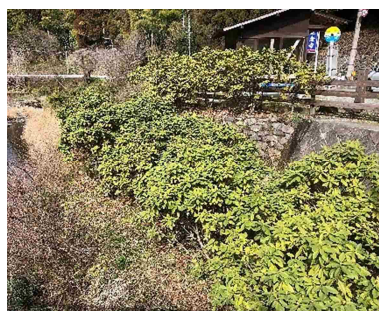


- ・ミヤシノシャクナゲ園は、八女市からの委託を受けて地元管理組合が通年管理を行っています。3月の「開園準備」と花が咲き終えた5月の「花柄摘み」は、地域住民をはじめ多くのボランティアの皆さんに協力していただいています。しかしながら高齢化に伴い役員等を含めた支援体制については苦慮している状況です。



▲花柄摘み

- ・緑の募金や八女市の景観整備補助金等を活用した沿道景観整備も進められています。



沿道へのシャクナゲ等の緑化木植栽

〔施策の基本方針〕

- ① 道路愛護の推進
- ② 環境整備の推進
- ③ 美しい景観の形成

基本目標 4：まつり、伝統文化等の伝承

〔現状と課題〕

【風流・はんや舞】（下郷・横廻り・中通り・上郷の4地区で麻生神社に奉納されています）

- ・福岡県指定無形民俗文化財「風流・はんや舞」は800年前から受け継がれていますが、少子高齢化に伴い担い手不足の窮地に立たされており、保存会による伝統文化の伝承のための新たな方策が求められています。上郷地区においても風流の打ち手、子役の確保が喫緊の課題となっています。



▲上郷はんや舞



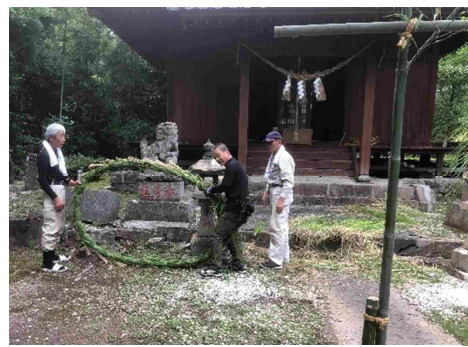
▲上郷風流

〔まつり等〕

- ・金山神社大祭・平野不動尊祭・年の神神社祭・三坂祇園神社大祭等の伝承も、氏子以外の地域からの支援を受けながら継続していますが、将来に渡って継続していくための方策が求められています。また、地区ごとに鬼火焚き(左義長)も行われていますが住民の減少により継続することが厳しくなっている地区も出てきています。



▲三坂祇園神社大祭



▲金山神社例大祭

〔施策の基本方針〕

- ① 文化財の保全活用
- ② 伝統文化の伝承



▲鬼火焚き

基本目標 5：交流による地域の活性化推進

〔現状と課題〕

【地域づくり等】

- ・人口減少と高齢化により、支部内でのコミュニティー活動の維持及び役員選出等に苦慮している地域も出ており、新たな枠組みの模索が必要となっています。
- ・新たな地域づくりに向けて、地区内外の人々との交流が求められています。また、視察研修等により見聞を広め、今後の地域づくりに活かしていくことも求められています。



▲上郷村ふれあい運動会



▲上郷地域交流センター清掃



▲PTA 資源ごみ回収支援



▲視察研修 星野氏ゆかりの
福岡市吉塚地藏大菩薩

【山村留学支援】

- ・「星の自然の家」に市外の児童を1年間受け入れて、田舎暮らしを体験しながら星野小学校へ通学する「山村留学」を平成2年度から地域ぐるみで支援しています。少人数クラスの中に、毎年新たな子どもたちが転校してくることで人間関係の固定化を防ぐとともに他校の文化や考えに触れながら切磋琢磨することにより、双方ともに教育効果も上がっています。また、地元民は都市部からの親御さんと交流することにより、上郷地域の魅力や資源に対する客観的評価、意見を得ることで、自分たちの地域の良さを再認識し、地域資源（まつり、伝統文化、自然景観、農産物、人々の心優しさ）を守っていこうとする意識づくりに繋がっており、今後も継続支援が求められています。



▲山村留学生 田植え体験

〔施策の基本方針〕

- ① 地域コミュニティーの育成
- ② 地域間交流の推進
- ③ 健康増進イベントの推進
- ④ 上郷村の情報発信

特記

上郷村が活用している八女市等からの助成金等(◎通年活用 ○随時)

- ◎星野地区まちづくり協議会等交付金
(自ら行動する校区まちづくり協議会等運営交付金)
- ◎いきいき行政区運営交付金
- ◎道路河川愛護報償金
- ◎風流・はんや舞保存会交付金
- ◎環境衛生協議会補助金(ごみ減量対策奨励金)
- ◎小地域福祉活動交付金
- ◎日本赤十字社社資募集報償金

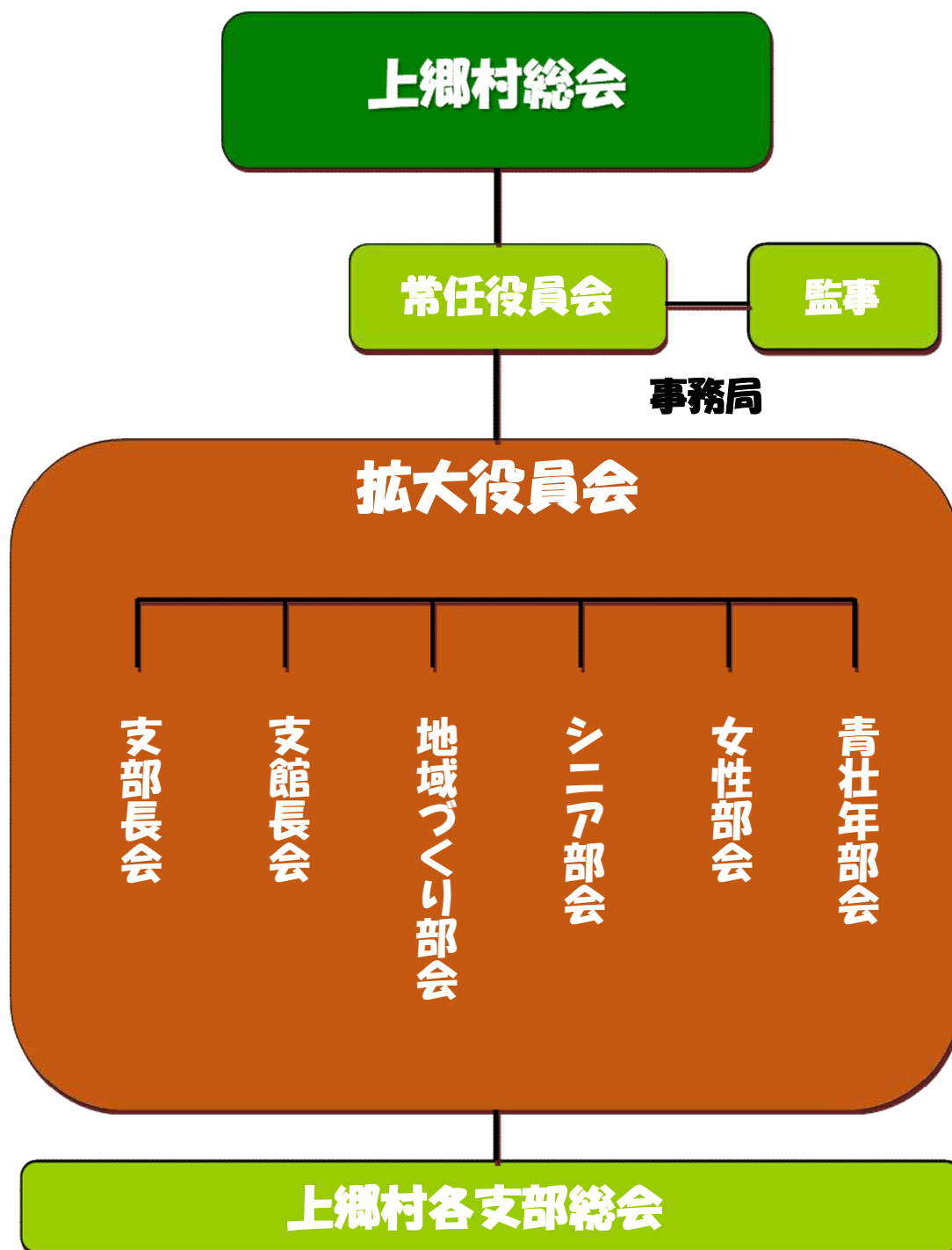
- 八女市防犯カメラ設置補助金
- 公共灯(防犯灯)設置補助金
- 八女市星野村景観整備支援事業補助金
(苗木の助成、立木伐採助成、名勝地、沿道修景助成)
- 自主防災組織支援整備事業補助金
- 自主防災組織等土のう作り支援事業
- 八女市緑の募金助成事業(苗木の配布等による緑化)
- 地域づくり提案事業(H24 屋根付きバス停、観光案内サイン等)

2 住民参加の方針

1) 基本的考え方

この計画の実現にあたっては、住民自らが考え、お互いに助け合いながら協働で行動を起こすことが最も重要なことです。そのため、地域住民が積極的に参画しながら地域の活性化と課題解決に取り組むことを目指します。

2) 推進体制



3 具体的な取り組み

基本目標 1. 暮らしやすい環境づくり

施策	具体的な取り組み	実施主体		推進中	初年度から 実施します	検討を重ねて 実施します
		主	部 会			
① 防犯・防災 対策の推進	県道・市道・林道・河川等の危険箇所(路肩・護岸崩壊・山腹崩壊、洪水・地滑等)の調査及びハザードマップの作成	行政	支部長 地域づ	○		
	集落上流部の林道の横断暗渠、側溝詰り箇所の点検	行政	支部長		○	
	避難体制の確立	行政	支部長 福祉委員	○		
	公共灯、防犯カメラの設置	上郷村	支部長	○		
	防犯教室の実施	上郷村	支部長 福祉委員		○	
	自主防災組織の育成 (上郷1区防災計画の作成)	行政	支部長 福祉委員			○
	防火水槽の点検清掃	上郷村	自衛消防 支部長		○	
② 地域福祉の 推進	支部長、福祉委員、民生委員連絡協議会	上郷村	支部長 福祉委員	○		
	地域サロンの実施	上郷村	各支館 シニア	○		
	一人暮らし世帯調査、声かけ運動	行政 社協	支部長 福祉委員	○		
	健康づくり講座	支部	各支館		○	
	買い物、ゴミ出し支援	社協	福祉委員 青壮			○
③ 交通安全対 策	県道、市道、林道、農道等の補修整備等	行政	支部長	○		
	沿道の支障木等の伐採等	行政	支部長 青壮年	○		

基本目標 2. 地域資源の有効活用

施策	具体的な取り組み	実施主体		推進中	初年度から 実施します	検討を重ねて 実施します
		主	部会			
① 自然景観の保全	カラ迫岳、石割岳、熊渡山、城山の登山道等の整備及び山開きの開催等	上郷村	各支部 地域づ	○		
	ミヤシノシャクナゲ園管理受託 花柄摘み等のボランティア支援	行政 上郷村	支部長 地域づ	○		
② 里山の食文化の伝承	昔ながらの手作りの味の継承	上郷村	青壮年 女性部		○	
	地域イベント時の里山食材の活用	上郷村	青壮年 女性部		○	
	レンピづくり	上郷村	青壮年 女性部			○

基本目標 3. 美しい上郷村の景観形成

施策	具体的な取り組み	実施主体		推進中	初年度から 実施します	検討を重ねて 実施します
		主	部会			
① 道路愛護の推進	道路愛護、河川愛護の実施	行政	支部長	○		
② 環境整備の推進	分別収集の推進及び不法投棄の防止	行政	支部長	○		
	ごみ処理施設の見学	上郷村	支部長		○	
③ 美しい景観の形成	沿道景観整備の推進 (緑の募金・市の苗木配布活用)	上郷村	各支館 地域づ	○		
	クリーンキャンペーンの推進	行政	支部長	○		
	農用地荒廃地対策 自助努力のすすめ (中山間地域直払い制度の活用等)	行政	支部長 地域づ	○		
	農用地管理時の周辺道路の草刈り推進	上郷村	支部長		○	
	イルミネーションの設置	支部	各支館	○		
	空き家情報の提供	上郷村	支部長 地域づ	○		
空き家解体相談の取次支援	行政	事務局		○		

基本目標 4. まつり、伝統文化等の伝承

施 策	具体的な取り組み	実施主体		推 進 中	初年度から 実施します	検討を重ねて 実施します
		主	部 会			
① 文化財の保全 活用	風流・はんや舞保存と伝承	保存会	支館長	○		
	文化財めぐり(学習会)	上郷村	支館長			○
② 伝統文化の伝承	神社、仏閣などにまつわる行事、祭りの伝承	氏子	氏子	○		
	金山神社大祭	氏子	支部長	○		
	平野不動尊祭、年の神神社祭 三坂祇園神社大祭等	氏子	氏子	○		

基本目標 5. 交流による地域の活性化推進

施 策	具体的な取り組み	実施主体		推 進 中	初年度から 実施します	検討を重ねて 実施します
		主	部 会			
① 地域コミュニ ティーの育成	上郷地域交流センター清掃	上郷村	地域づ	○		
	視察研修	上郷村	地域づ	○		
	地域の特色を生かしたイベントの実施	上郷村 支部	地域づ	○		
	PTA 資源ごみ回収活動支援	PTA 上郷村	青壮年	○		
	地域づくり講演会等への参加呼びかけ	行政 上郷村	地域づ		○	
② 地域間交流の 推進	山村留学実親との交流会	上郷村	地域づ		○	
	山村留学の支援	育てる会 上郷村	支部長	○		
③ 健康増進イベ ントの推進	ふれあい運動会・グラウンドゴルフ等	上郷村	支館長 各支館	○		
④ 上郷村の情報 発信	上郷村情報の発信活動 広報活動 ICT(情報通信技術)を活用した情報提供	上郷村	事務局		○	